

令和3年度 厚生労働科学研究費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業研究事業)
「地域特性に応じた地域・職域連携推進事業の効果的な展開のための研究」
分担研究報告書

NDB データを用いた二次医療圏単位での
特定健診問診項目の指標作成：標準化該当比を用いて

分担研究者 加藤 源太 (京都大学医学部附属病院 准教授)
研究協力者 植嶋 大晃 (京都大学医学部附属病院 特定助教)

研究要旨

【研究目的】

2019年に改訂された地域・職域連携推進ガイドラインでは、地域全体の健康課題を把握し、地域・職域の関係者が同じ目標に向かって取り組んでいくために、匿名医療情報等(NDB)をはじめとした医療データを活用することの重要性が指摘されている。本研究は、こうした問題意識に基づき、NDBに収載されたデータから、地域・職域連携における健康課題の把握や保健事業の展開等に活用できる客観的な指標の同定を試みることを目的とするものである。

【研究方法】

分担研究者らがこれまでに実施してきた先行研究の知見に基づき、2014年度、2015年度実施分のNDB特定健診データから、二次医療圏協議会での活用に耐えうよう、問診項目のなかの5項目の質問事項、およびNDBレセプトデータを掛け合わせた上でHbA1cの値ごとの糖尿病の治療実態について、二次医療圏単位での集計を行った。集計結果の指標化に際しては、横山らによるこれまでの厚労科研の成果を踏まえ、今回は標準化該当比による評価を試みた。

【研究結果】

NDB特定健診データの5項目の質問に対し、対都道府県、及び対全国での二次医療圏単位の標準化該当比を求めることができた。同一都道府県内においても、二次医療圏ごとに標準化該当比に大きな幅がみられる結果となった。一方、両年度において各質問項目への回答状況を比較した限りでは、都道府県内での各二次医療圏の標準化該当比の序列に大きな変動を来たす事例はほとんど確認できなかった。同様に、NDBレセプトデータとNDB特定健診のHbA1cの値を掛け合わせた集計が可能であることが確認できた。標準化該当比を活用し、NDB特定健診データを用いて二次医療圏別の健康状況に関する指標を導出することが可能であることが示された。

A. 研究目的

従来、都道府県及び二次医療圏においては地域・職域連携推進協議会が設置され、地域保健と職域保健の連携推進を検討する場として機能してきたところではあるが、2019年に改訂された地域・職域連携推進ガイドラインでは、地域全体の健康課題を把握し、地域・職域の関係者が同じ目標に向かって取り組んでいくために、匿名医療情報等（NDB）をはじめとした医療データを活用することの重要性が指摘されている¹。

本研究は、こうした問題意識に基づき、NDBに収載されたデータから、地域・職域連携における健康課題の把握や保健事業の展開等に活用できる客観的な指標の同定を試みることを目的とするものである。

B. 研究方法

（NDBデータの活用）

NDBはレセプト情報および特定健診・特定保健指導情報を含む大規模医療データであり、厚生労働省が2009年より収集を開始しているデータベースである。その悉皆性の高さからNDBは大きな期待を集めるデータであるが、NDBデータ自体は大量のCSVデータの蓄積であり、そのデータをどう扱うかという課題がつきまとう。加えて、地域保健・職域保健の連携を活性化させるための情報を引き出すには、NDBの集計で得られる結果をどう指標として成り立たせるか、という課

題も存在している。

分担研究者においては、令和元年度厚生労働科学特別研究事業「健康寿命の延伸に向けた地域保健と職域保健の連携に資するデータ項目及び分析方法の明確化のための研究」（以後「令和元年度研究」とする）において、2014年度分のNDB特定健診データの特定の質問票項目を二次医療圏単位で指標化する試みを行った。

令和3年度は令和2年度に続き、2014年度および2015年度の特定健診データを用いて、質問票項目および検査項目について指標化することを行うものである。また、令和3年度は上記に加え、糖尿病を例に取り、特定健診情報に傷病名や各種処置等のレセプト情報を加味した指標の作成についても検討を行った。

（「標準化該当比」の算出）

令和3年度も前年度に引き続き、都道府県内における二次医療圏ごとの健康指標の差異と、都道府県全体における全国平均との差異を明確化することを考慮し、指標として「標準化該当比」を用いた。標準化該当比を特定健診のデータ分析に活用する手法については横山による解説が公開されている²。

（今回の対象とする特定健診の項目）

本研究では、以下の特定健診質問票項目について、対都道府県、及び対全国で、二次医療圏単位で標準化該当比の算出を行った³。なお、BMIおよび腹囲については内臓脂肪蓄積のリスク判定値以上であることの標準化該当比を算出した。検査

項目については、保健指導判定値以上であることの標準化該当比と、受診勧奨判定値以上であることの標準化該当比をそれぞれ算出した。

質問票項目

・質問 13

この 1 年間で体重の増減が±3 kg 以上あった。

①はい ②いいえ

→ ①に該当する者の標準化該当比を算出

・質問 14

人と比較して食べる速度が速い。

① 速い ②ふつう ③遅い

→ ①に該当する者の標準化該当比と、①または②に該当する者の標準化該当比を算出

・質問 15

就寝前の 2 時間以内に夕食をとることが週に 3 回以上ある。

①はい ②いいえ

→ ①に該当する者の標準化該当比を算出

・質問 16

夕食後に間食(3 食以外の夜食)をとることが週に 3 回以上ある。

①はい ②いいえ

→ ①に該当する者の標準化該当比を算出

・質問 17

朝食を抜くことが週に 3 回以上ある。

①はい ②いいえ

→ ①に該当する者の標準化該当比を算出

・質問 18

お酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度 ①毎日 ②時々 ③ほとんど飲まない(飲めない)

→ ①に該当する者の標準化該当費と、①または②に該当する者の標準化該当比を算出

・質問 19

飲酒日の 1 日当たりの飲酒量 ①1 合未満 ②1~2 合未満 ③2~3 合未満 ④3 合以上

→ ①に該当する者の標準化該当比、①または②に該当する者の標準化該当比、および①または②または③に該当する者の標準化該当比を算出

・質問 20

睡眠で休養が十分とれている。

①はい ②いいえ

→ ①に該当する者の標準化該当比を算出

・質問 21

運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。①改善するつもりはない ②改善するつもりである(概ね 6 か月以内) ③近いうちに(概ね 1 か月以内) 改善するつもりであり、少しずつ始めている ④既に改善に取り組んでいる(6 か月未満) ⑤既に改善に取り組んでいる(6 か月以上)

→ ①に該当する者の標準化該当比と、①または②または③に該当する者の標準化該当比を算出

- ・質問 22
生活習慣の改善について保健指導を受ける機会があれば、利用しますか。
①はい ②いいえ
→ ①に該当する者の標準化該当比を算出

BMI

- 内臓脂肪蓄積のリスク判定値 (25) 以上に該当する者の標準化該当費を算出

腹囲

- 内臓脂肪蓄積のリスク判定値 (男性 85、女性 90) 以上に該当する者の標準化該当比を算出

検査項目

- ・空腹時血糖
→ 保健指導判定値 (100) 以上に該当する者の標準化該当比と、受診勧奨判定値 (126) 以上に該当する者の標準化該当比を算出
- ・HbA1c
→ 保健指導判定値 (5.6) 以上に該当する者の標準化該当比と、受診勧奨判定値 (6.5) 以上に該当する者の標準化該当比を算出
- ・中性脂肪
→ 保健指導判定値 (150) 以上に該当する者の標準化該当比と、受診勧奨判定値 (300) 以上に該当する者の標準化該当比を算出
- ・HDL コレステロール
→ 保健指導判定値 (35) 以上に該当する者の標準化該当比と、40

以上に該当する者の標準化該当比を算出

- ・LDL コレステロール
→ 保健指導判定値 (120) 以上に該当する者の標準化該当比と、受診勧奨判定値 (140) 以上に該当する者の標準化該当比を算出
- ・拡張期血圧
→ 保健指導判定値 (85) 以上に該当する者の標準化該当比と、受診勧奨判定値 (90) 以上に該当する者の標準化該当比を算出
- ・収縮時血圧
→ 保健指導判定値 (130) 以上に該当する者の標準化該当比と、受診勧奨判定値 (140) 以上に該当する者の標準化該当比を算出

(糖尿病の情報を加味した集計)

特定健診受診者に対する受診勧奨の実態を評価する指標として、本研究では HbA1c が 6.5 以上、7.0 以上、8.0 以上であった者における「糖尿病受療者」の割合を都道府県および二次医療圏別に集計し、前述の特定健診項目と同様に標準化該当比を算出した。

なお、「糖尿病受療者」の定義は、NDB を用いて行われた先行研究における定義を用いて⁴、「特定健診を受けた年度と同じ年度中に、糖尿病の傷病名と糖尿病治療薬の処方の方が行われた月が 1 ヶ月以上あった者」とした。

(倫理面への配慮)

NDB データの提供を受けるにあつ

ては、「レセプト情報・特定健診等情報の提供に関するガイドライン」を遵守した運用を明記した提供依頼申出を行い、厚生労働省による承諾を得た。またデータ提供を受けるに際しては所属機関における倫理審査での承認が必要であるため、京都大学医の倫理委員会にて申請を行い、承認を得た (R1119-2)。

C. 研究結果

(NDB データに基づく標準化該当比)

対都道府県、及び対全国で、調査対象とした質問票項目について、2014 年度及び 2015 年度の NDB データから、二次医療圏別の標準化該当比をグラフ化した。グラフ化においては、縦軸のゼロを「標準化該当比-100」とし、基準集団において期待される該当者数よりも多いのか、少ないのかのパーセントを値として定めた。これにより、対都道府県のグラフでは、都道府県内の期待値よりもどの程度該当者が多いのか／少ないのかを、ゼロ値を上回るか／下回るか、で簡便に確認することが可能となっている。また、対全国のグラフでは、同様に全国水準で見た期待値よりもどの程度該当者が多いのか／少ないのかを、ゼロ値を上回るか／下回るか、で簡便に確認することが可能となっている。結果は本報告末尾の添付資料の如くである。

これまで実施してきた集計結果と同様に、各質問票項目および検査項目には地域ごとに算出した標準化該当比には幅がみられる結果となった。詳細は末尾の添

付資料 (東京都における結果のみ掲載) を参照されたい。

(HbA1c 高値であった者における「糖尿病受療者」の割合と標準化該当比)

2015 年度に受診した特定健診 HbA1c が 6.5 以上であった者における「糖尿病受療者」の割合は、男性 17.5% 女性 17.2% であった。同様に、HbA1c が 7.0 以上であった者における割合は男性 21.0% 女性 22.6%、HbA1c が 8.0 以上であった者における割合は男性 23.1% 女性 25.9%、HbA1c が 9.0 以上であった者における割合は男性 22.9% 女性 25.8% であった。

また、HbA1c 高値であった者における「糖尿病受療者」の標準化該当比も、地域により幅がみられる結果となった。詳細は末尾の添付資料 (東京都における結果のみ掲載) を参照されたい。

D. 考察

今回の研究では、調査対象とする質問票項目および検査項目を追加するとともに、糖尿病を例として特定健診情報に糖尿病受療に関する情報を加味した集計および指標の作成を行った。

令和 2 年度の研究における報告と同様、2014 年度と 2015 年度の標準化該当比の比較においては、二次医療圏単位の標準化該当比の序列が大きく変わった事例は殆どみられなかった。この結果から、2014 年度から 2015 年度にかけての特定健診の質問票項目および検査項目全般において、標準化該当比の改善に直接影響が及

ぶような行動変容は生じなかったと考えられる。

HbA1c 高値であった者における「糖尿病受療者」の割合については、特定健診データを用いて行われた先行研究⁵において、2015年における未治療の者の割合が男性 41.8%、女性 43.1%と報告されている。先行研究は特定健診の質問票項目における「インスリン注射又は血糖を下げる薬の使用」に「なし」と回答した者の割合となっており、本研究における集計と直接比較することは困難であるが、本研究の結果は先行研究と必ずしも一致しないものであった。受診者の「インスリン注射又は血糖を下げる薬の使用」についての認識が、実際の処方の有無とは乖離している可能性などが考えうるが、この結果をもたらした理由は不明である。

このように、NDBにおける特定健診とレセプトの突合には結果の解釈を慎重に行う必要がある、という一定の留意が必要であるものの、特定健診情報にレセプト情報を加味した集計および指標の作成には実現可能性があることが明らかになった。今回採用した標準化該当比のグラフは視認性の高い指標であり、多くの人にとって自分たちの地域の健康指標の動向を把握することに役立つことが期待される。一方、単年度で対都道府県、対全国のこれらの指標が大きく変化するとは考えにくい。そのためにも、人々の行動変容に繋げられるような保健医療事業の展開をただ進めていくだけでなく、その成果を今回導いた標準化該当比などの指標を継続的に用いて評価することが、人々の

生活習慣改善意欲の向上にとって必要なステップとなってこよう。

今回は厚労科研の一環として指標の作成を行ったが、今後 NDB を用いたこうした健康指標が継続的に集計され関係者間に迅速かつわかりやすく共有される体制を確保することが、地域・職域連携の更なる推進において益々重要な課題になってくるものと思われる。

なお、今回は厚生労働省科学研究費の一環として NDB の利用申出を行い、データの提供を受けて指標の作成を行ったが、令和 3 年度より二次医療圏別の特定健診の集計結果は NDB オープンデータ⁶として公表されるようになった。公開データをもとにして各地域が独自に、標準化該当比を算出することが可能となっており、今後は、これらの積極的な活用が期待されるところである。

E. 結論

NDB 特定健診データを用いて、複数の質問項目に対し、2014 年度及び 2015 年度分データから対都道府県、及び対全国の二次医療圏単位の標準化該当比を導出することができた。同一都道府県内においても、二次医療圏ごとに標準化該当比に大きな幅がみられる結果となった。また、標準化該当比を対全国で算定すると、都道府県内での比較のみならず全国的に見た相対的な健康指標の実現水準を知ることができるなど、NDB 特定健診データから標準化該当比を活用して二次医療圏別の健康状況に関する指標を導出することが可能であることが示された。

参考文献

1. 厚生労働省. 地域・職域連携推進ガイドライン
(<https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/000549871.pdf>、2021年3月1日確認).
2. 横山徹爾. 地方自治体における生活習慣病関連の健康課題把握のための参考データ・ツール集
(<https://www.niph.go.jp/soshiki/07shougai/datakatsuyou/>、2021年3月1日確認).
3. 厚生労働省. 標準的な健診・保健指導プログラム【平成30年度版】
(https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/00_3.pdf、2020年8月31日確認).
4. Yuichi Nishioka et.al. Absolute risk of acute coronary syndrome after severe hypoglycemia: A population-based 2-year cohort study using the National Database in Japan. *Journal of Diabetes Investigation* 2020 Mar;11(2):426-434
5. 徳留明美, 山田文也, 延原弘章, 萱場一則. 特定健康診査受診者における糖尿病有病者の治療状況と血糖コントロール状況. *厚生*の指標. 2019年. 第66巻第4号.
6. 厚生労働省、第6回NDBオープンデータ
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177221_00010.html、2022年2月1日確認).

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
 - 1) 加藤源太、植嶋大晃、シンポジウム S.[B7-1]:健康経営と地域・職域連携 NDB 特定健診項目の二次医療圏単位での集計ー地域・職域連携推進の基礎資料としてー、第79回日本公衆衛生学会総会、2020年10月21日

H. 知的財産権の出願・取得状況

なし

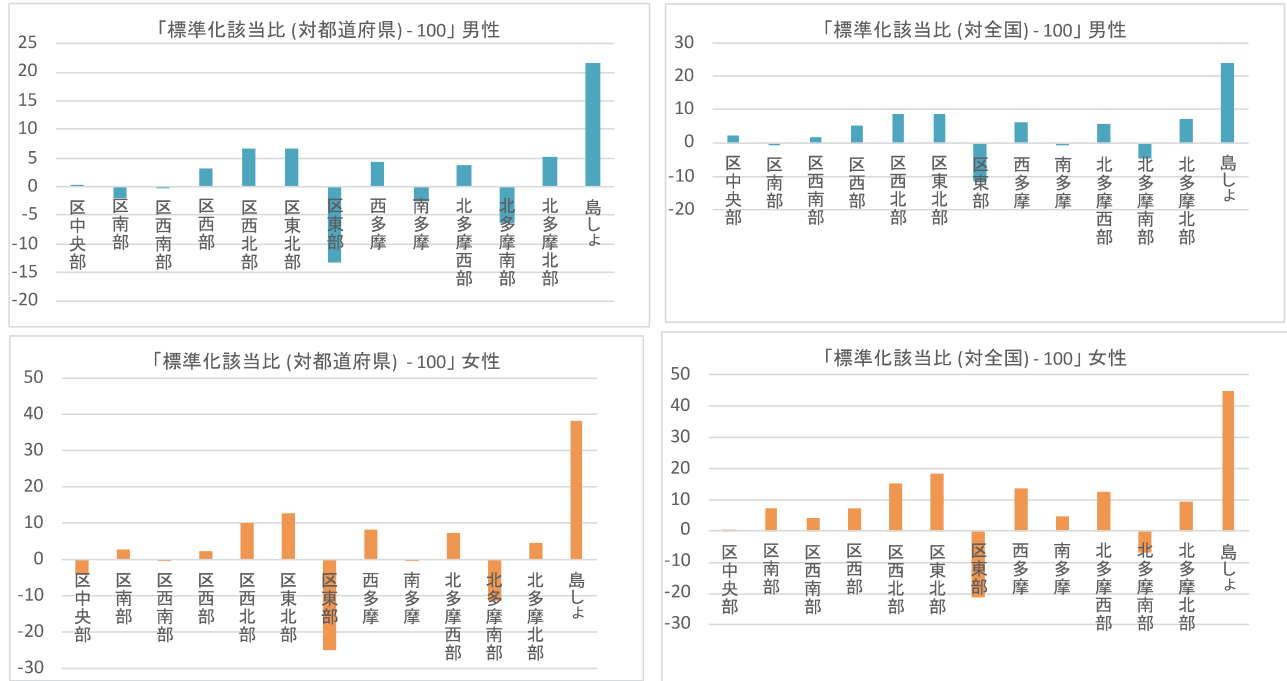
特定健診 標準的な質問票(質問項目13) この1年間で体重の増減が±3kg以上あった :H26年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が○%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



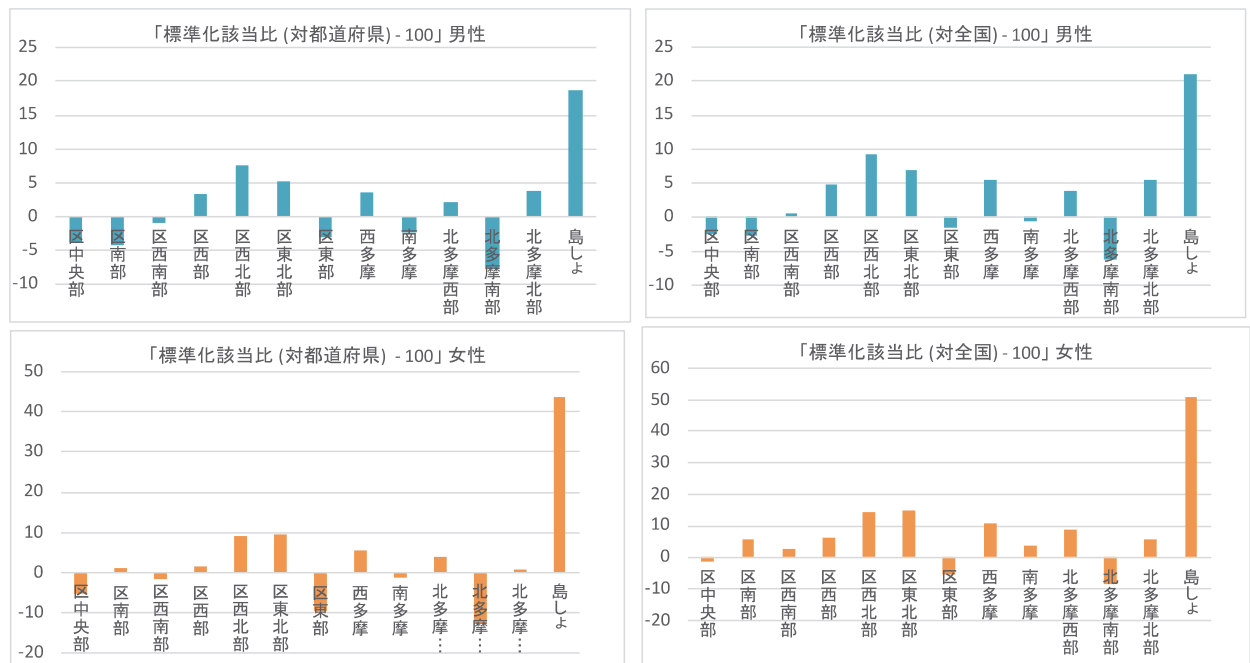
特定健診 標準的な質問票(質問項目13) この1年間で体重の増減が±3kg以上あった :H27年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が○%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



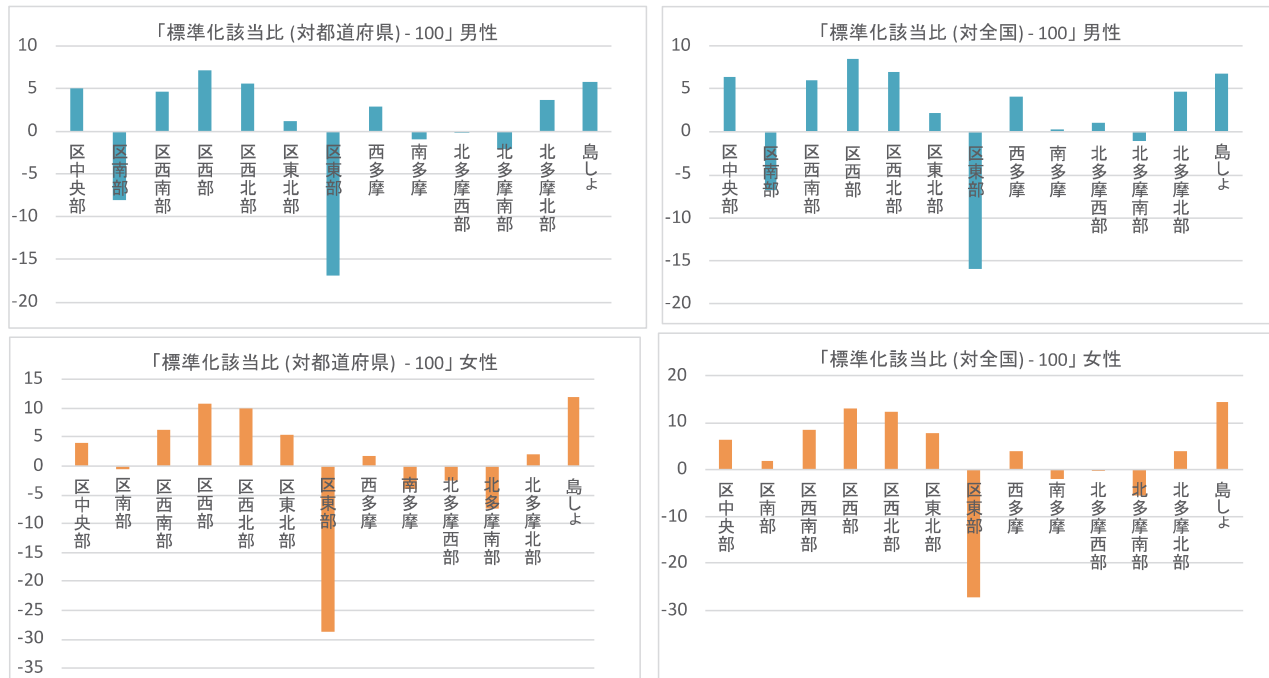
特定健診 標準的な質問票(質問項目14)人と比較して食べる速度が速い :H26年度 速い

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



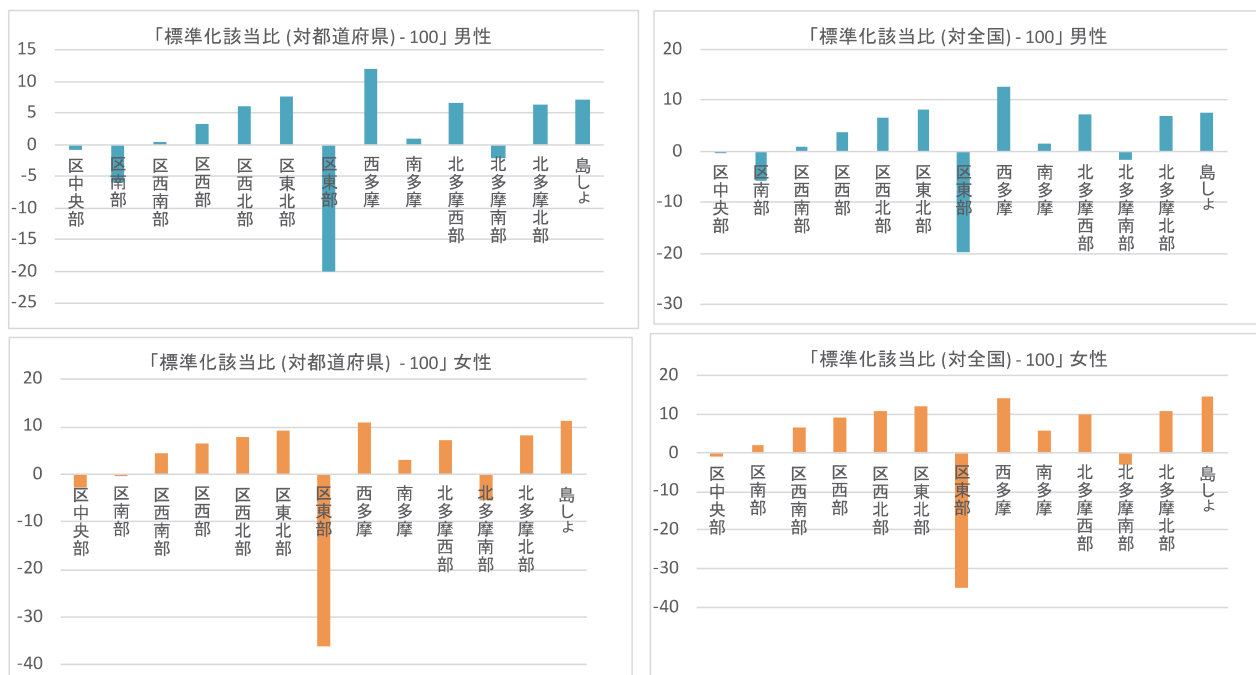
特定健診 標準的な質問票(質問項目14)人と比較して食べる速度が速い :H26年度 速い・ふつう

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



特定健診 標準的な質問票(質問項目14) 人と比較して食べる速度が速い :H27年度 速い

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



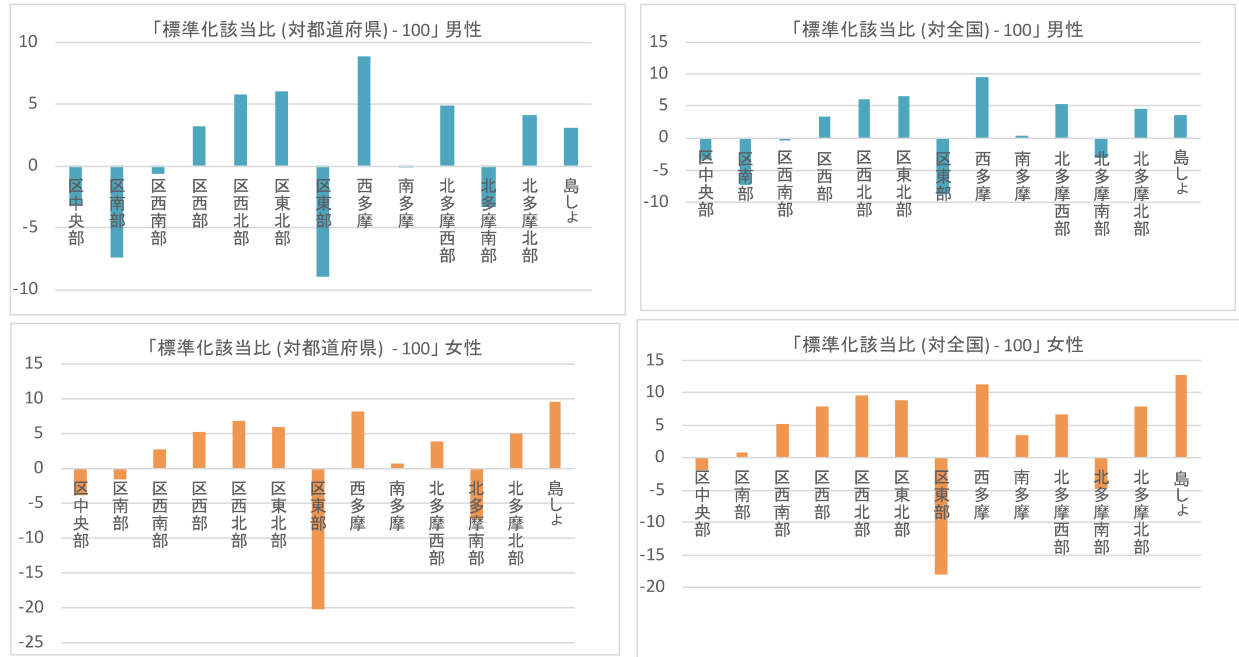
特定健診 標準的な質問票(質問項目14) 人と比較して食べる速度が速い :H27年度 速い・ふつう

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



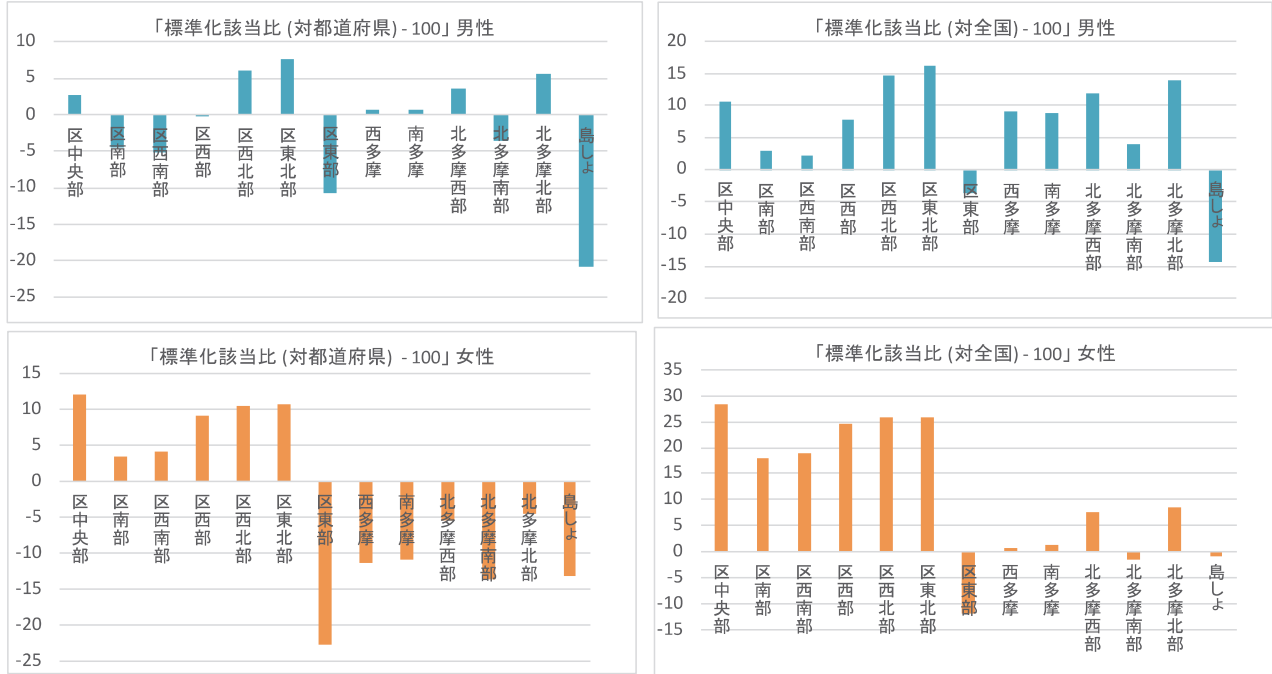
特定健診 標準的な質問票(質問項目15) 就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある :H26年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



特定健診 標準的な質問票(質問項目15) 就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある :H27年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



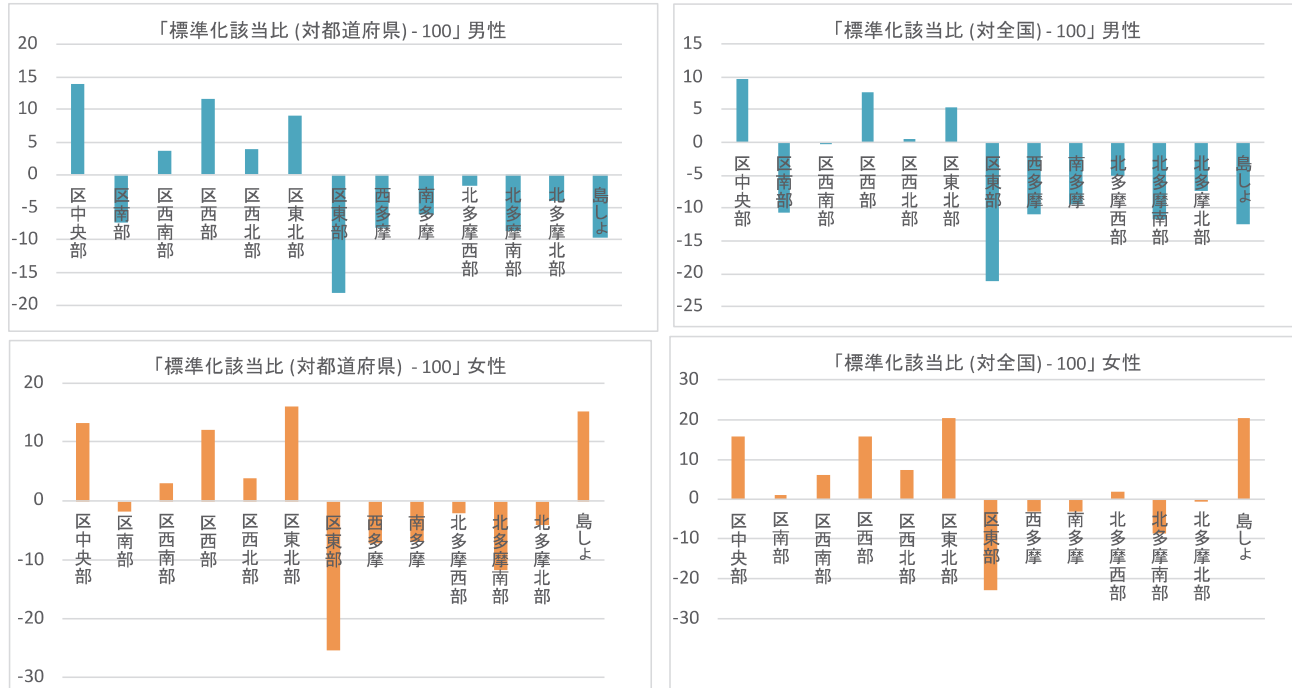
特定健診 標準的な質問票(質問項目16) 夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある :H26年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



特定健診 標準的な質問票(質問項目16) 夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある :H27年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



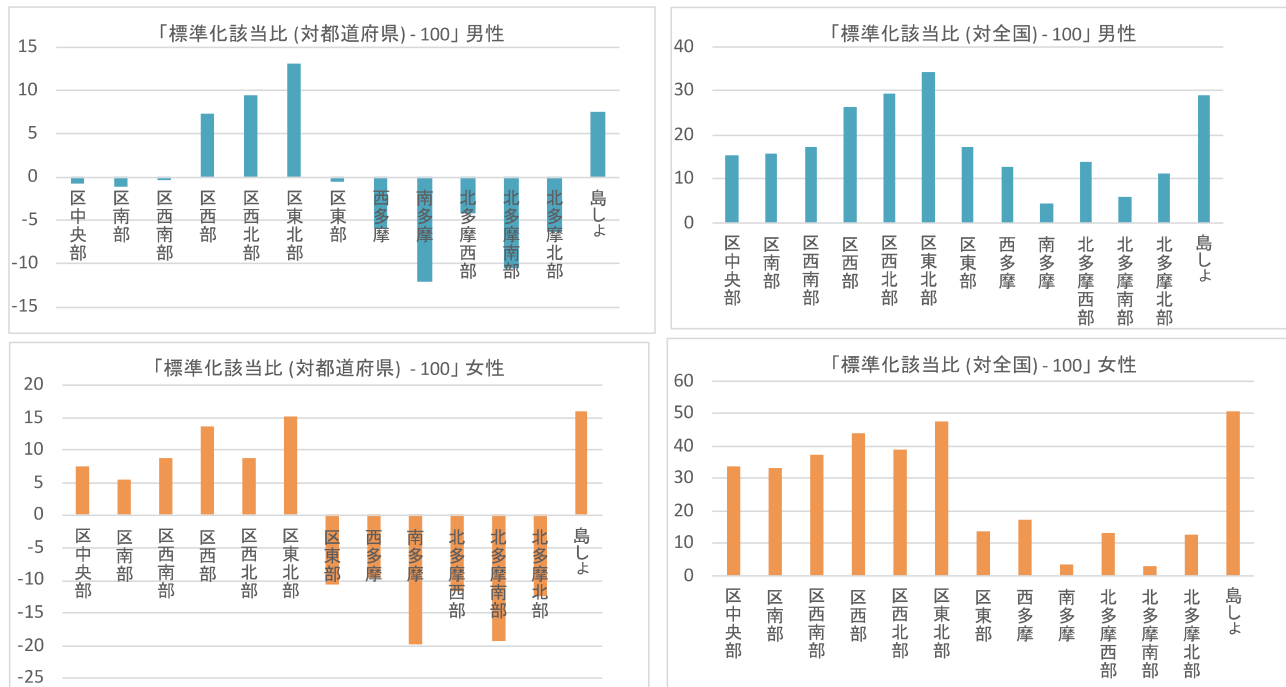
特定健診 標準的な質問票（質問項目17）朝食を抜くことが週に3回以上ある : H26年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ（縦軸の範囲はグラフに合わせ変動）

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



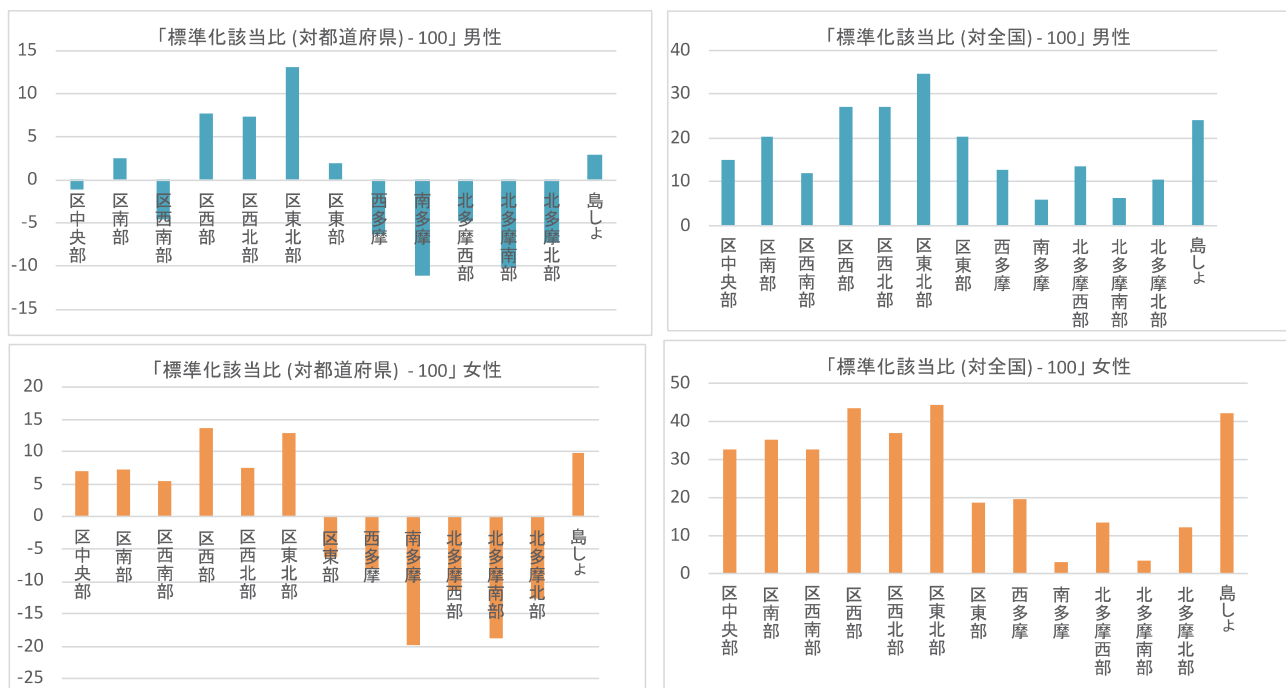
特定健診 標準的な質問票（質問項目17）朝食を抜くことが週に3回以上ある : H27年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ（縦軸の範囲はグラフに合わせ変動）

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



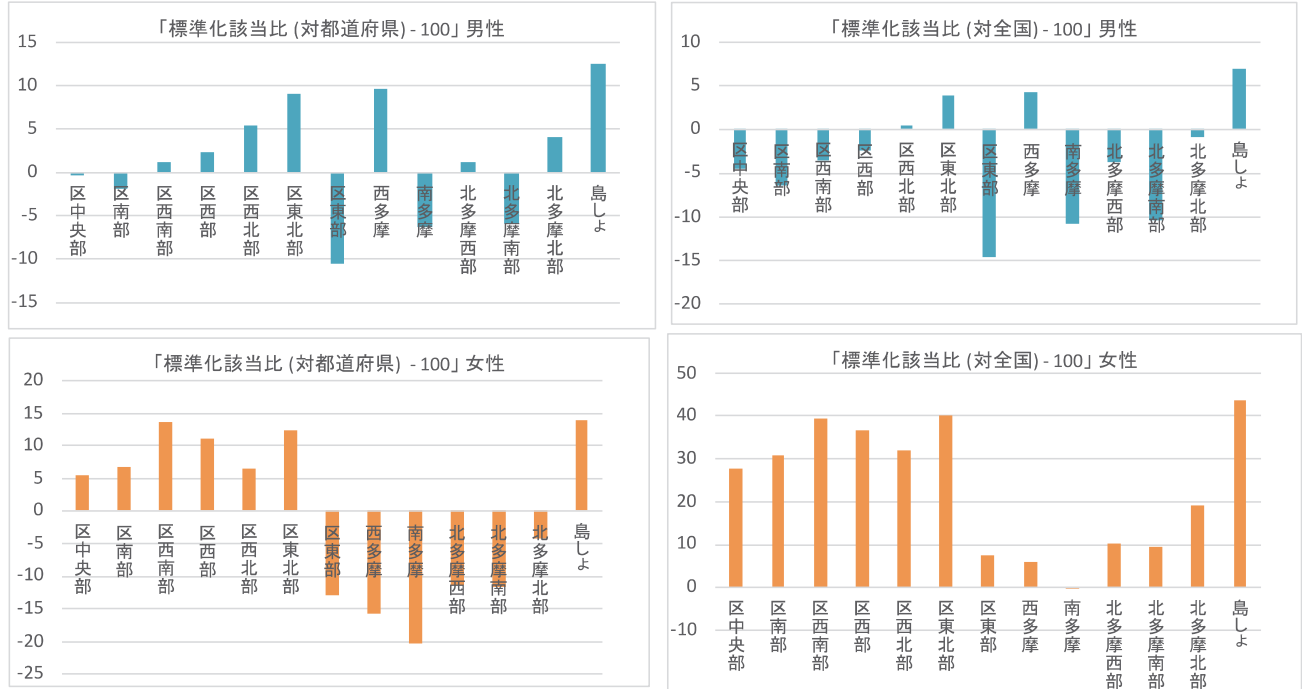
特定健診 標準的な質問票(質問項目18) お酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度 :H26年度 毎日

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



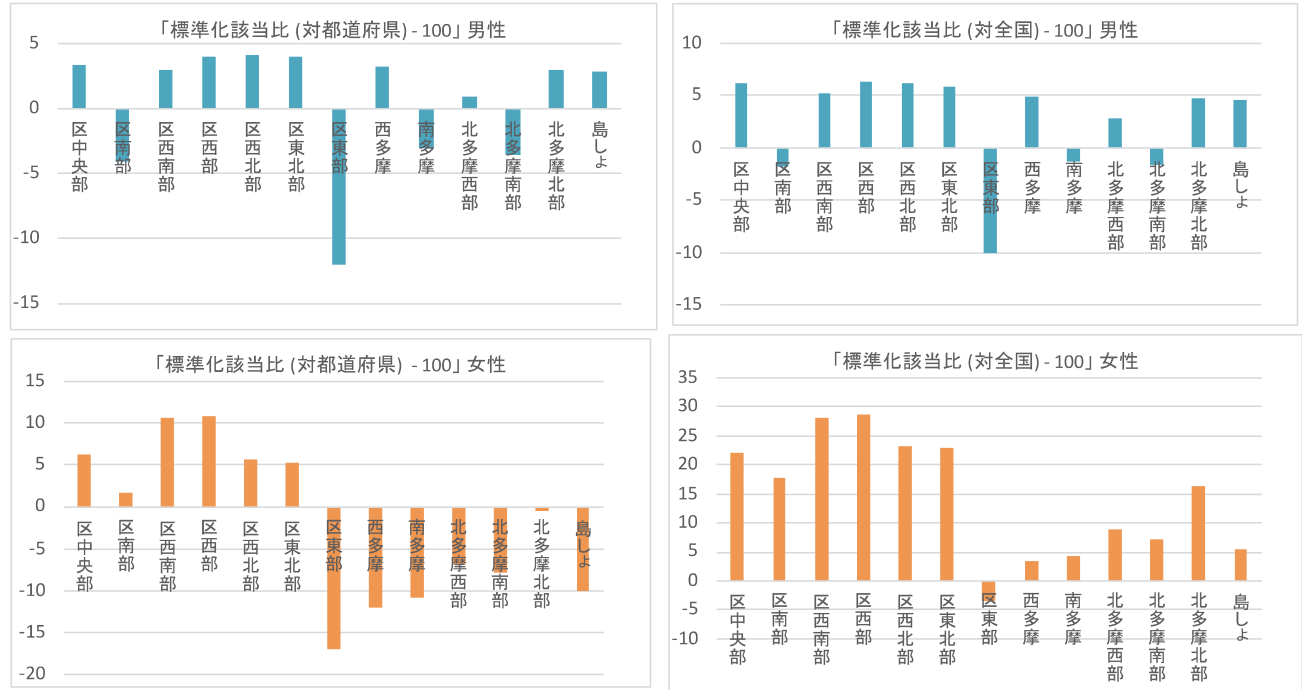
特定健診 標準的な質問票(質問項目18) お酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度 :H26年度 毎日・時々

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



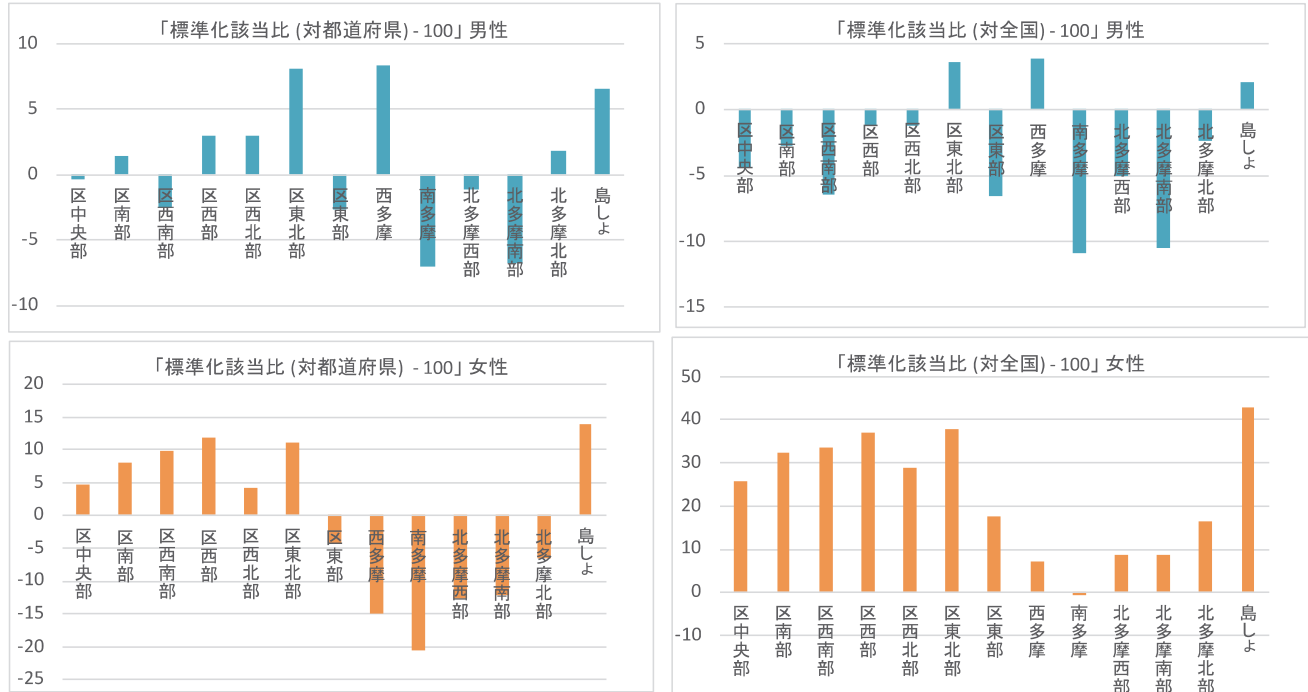
特定健診 標準的な質問票(質問項目18) お酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度 :H27年度 毎日

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



特定健診 標準的な質問票(質問項目18) お酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度 :H27年度 毎日・時々

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



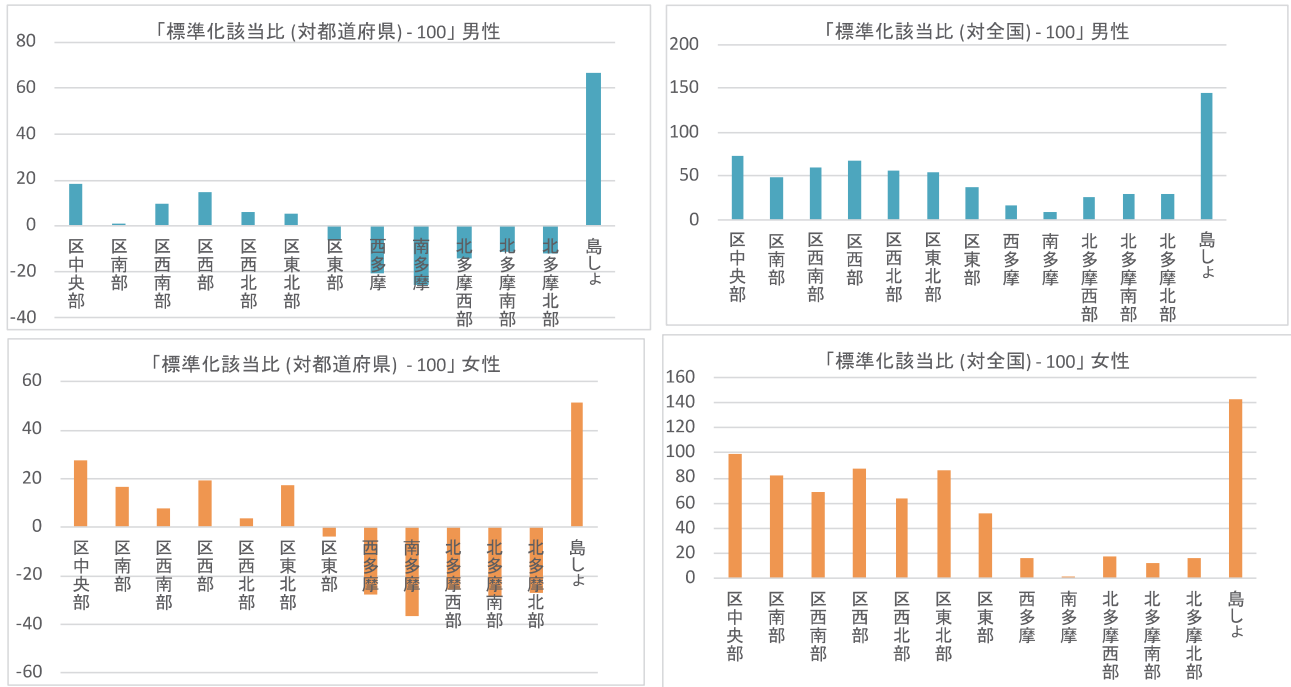
特定健診 標準的な質問票(質問項目19) 飲酒日の1日当たりの飲酒量[清酒1合(180ml)の目安:ビール中瓶1本(約500ml)、焼酎35度(80ml)、ウイスキータプル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)] : H26年度 3合以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



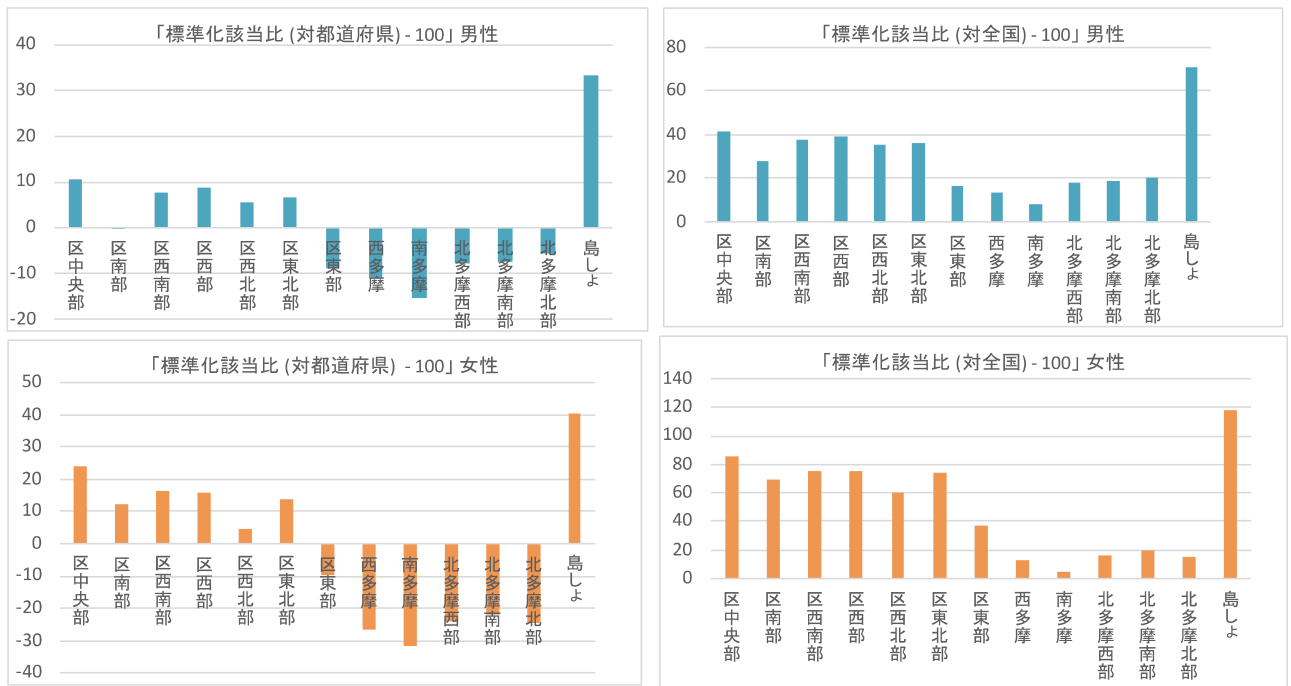
特定健診 標準的な質問票(質問項目19) 飲酒日の1日当たりの飲酒量[清酒1合(180ml)の目安:ビール中瓶1本(約500ml)、焼酎35度(80ml)、ウイスキータプル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)] : H26年度 3合以上・2~3合未満

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



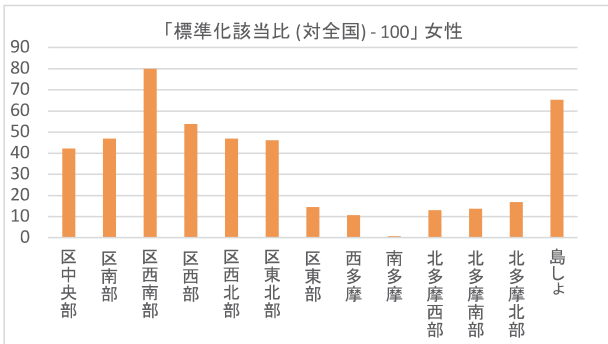
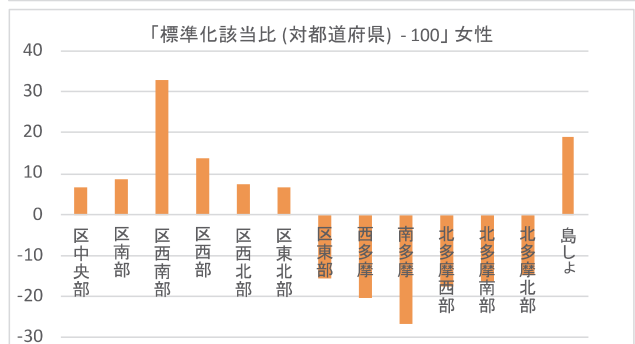
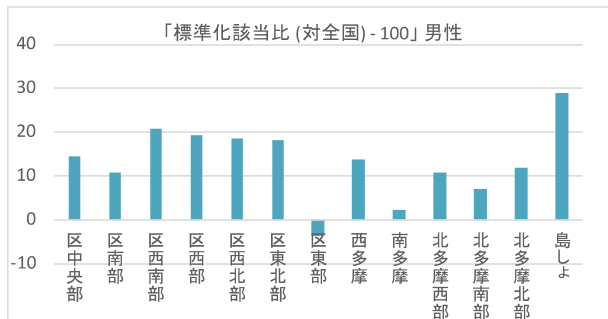
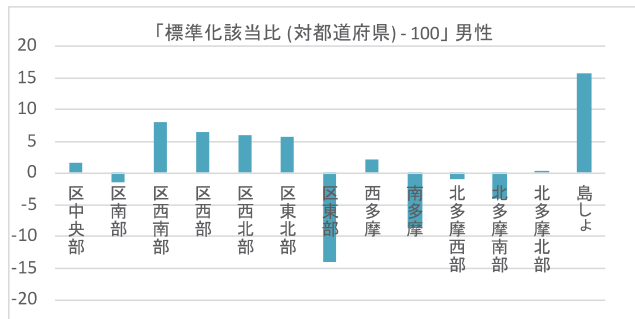
特定健診 標準的な質問票(質問項目19) 飲酒日の1日当たりの飲酒量[清酒1合(180ml)の目安:ビール中瓶1本(約500ml)、焼酎35度(80ml)、ウイスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)] :H26年度 3合以上・2~3合未満・1~2合未満

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



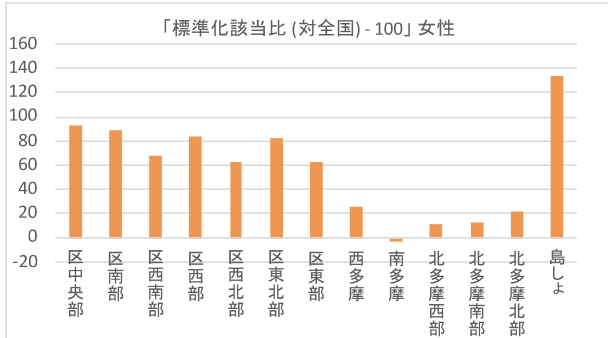
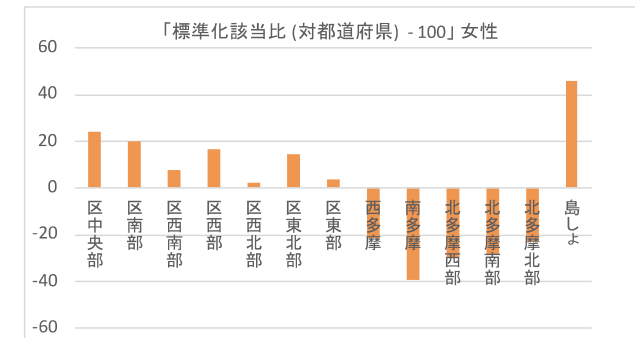
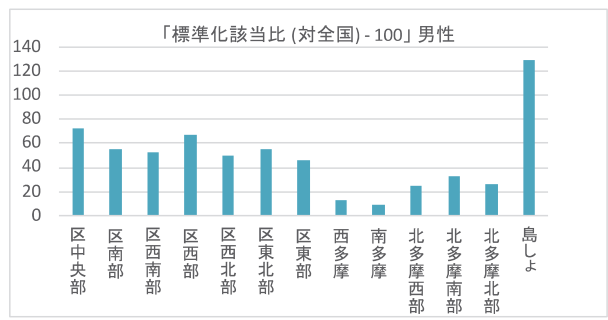
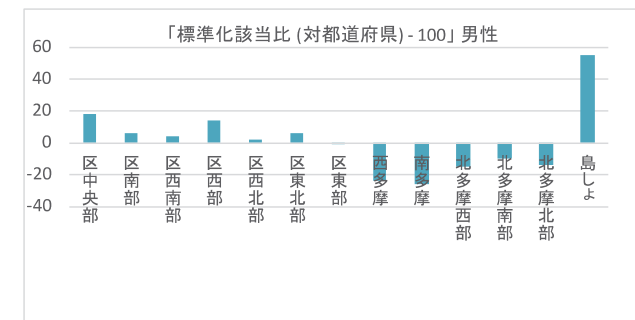
特定健診 標準的な質問票(質問項目19) 飲酒日の1日当たりの飲酒量[清酒1合(180ml)の目安:ビール中瓶1本(約500ml)、焼酎35度(80ml)、ウイスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)] :H27年度 3合以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



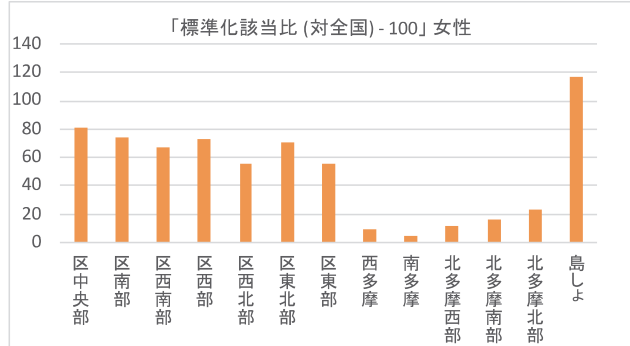
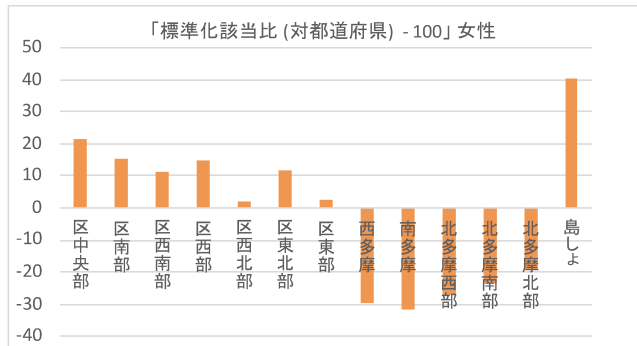
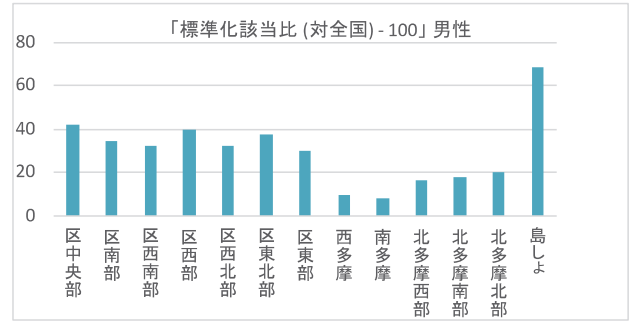
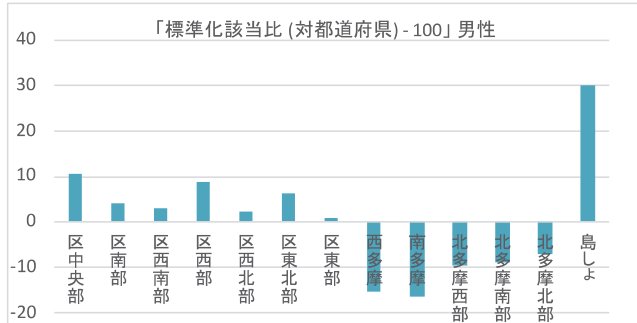
特定健診 標準的な質問票(質問項目19) 飲酒日の1日当たりの飲酒量[清酒1合(180ml)の目安:ビール中瓶1本(約500ml)、焼酎35度(80ml)、ウイスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)] : H27年度 3合以上・2~3合未満

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



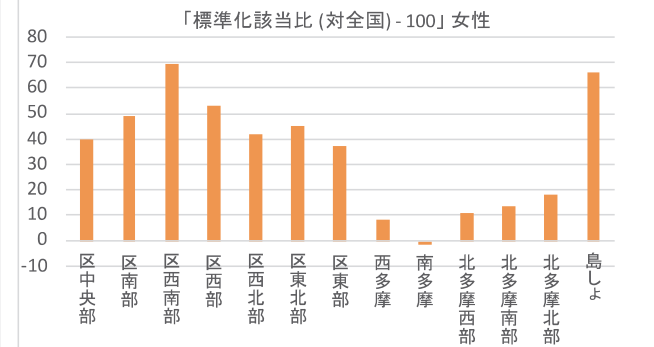
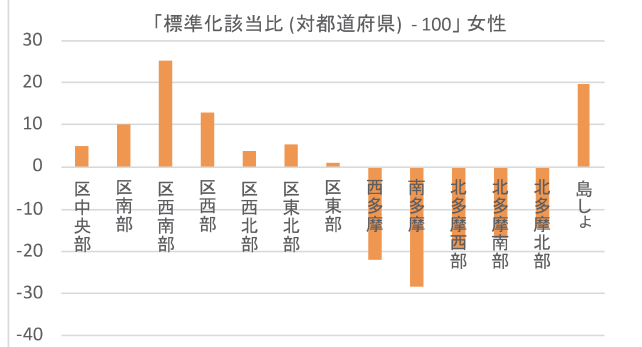
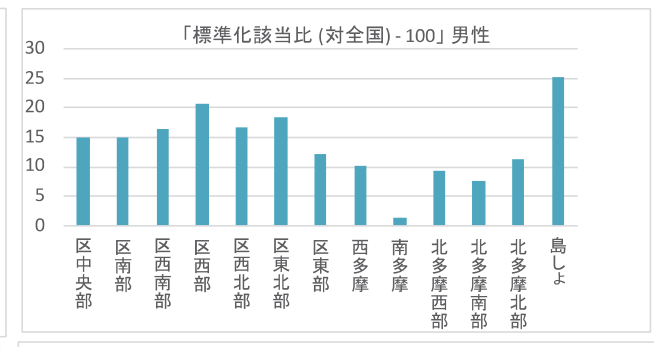
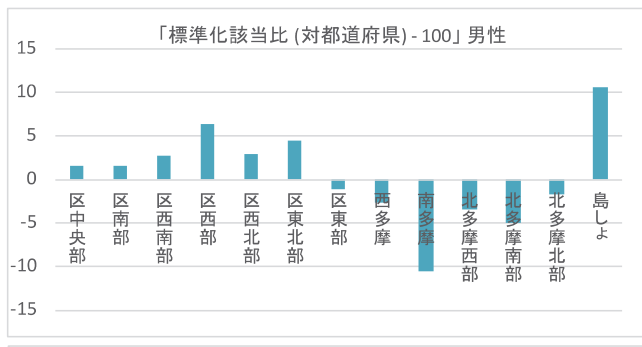
特定健診 標準的な質問票(質問項目19) 飲酒日の1日当たりの飲酒量[清酒1合(180ml)の目安:ビール中瓶1本(約500ml)、焼酎35度(80ml)、ウイスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)] : H27年度 3合以上・2~3合未満・1~2合未満

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



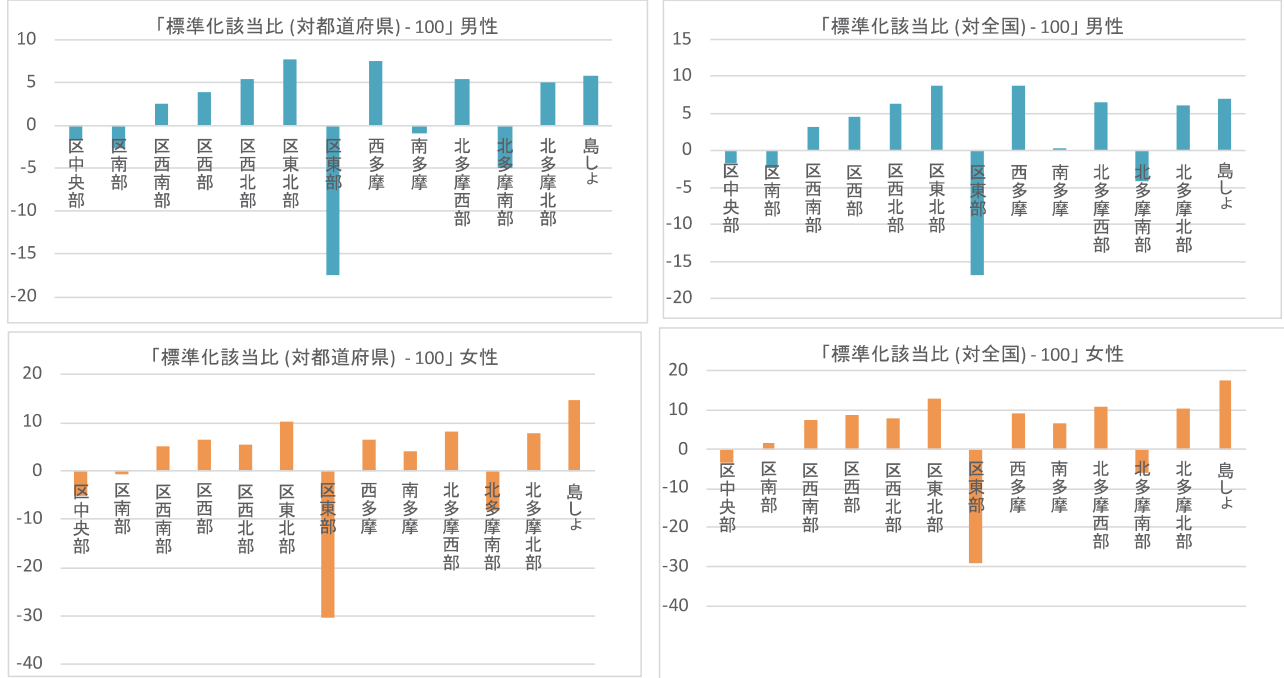
特定健診 標準的な質問票(質問項目20) 睡眠で休養が十分とれている :H26年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



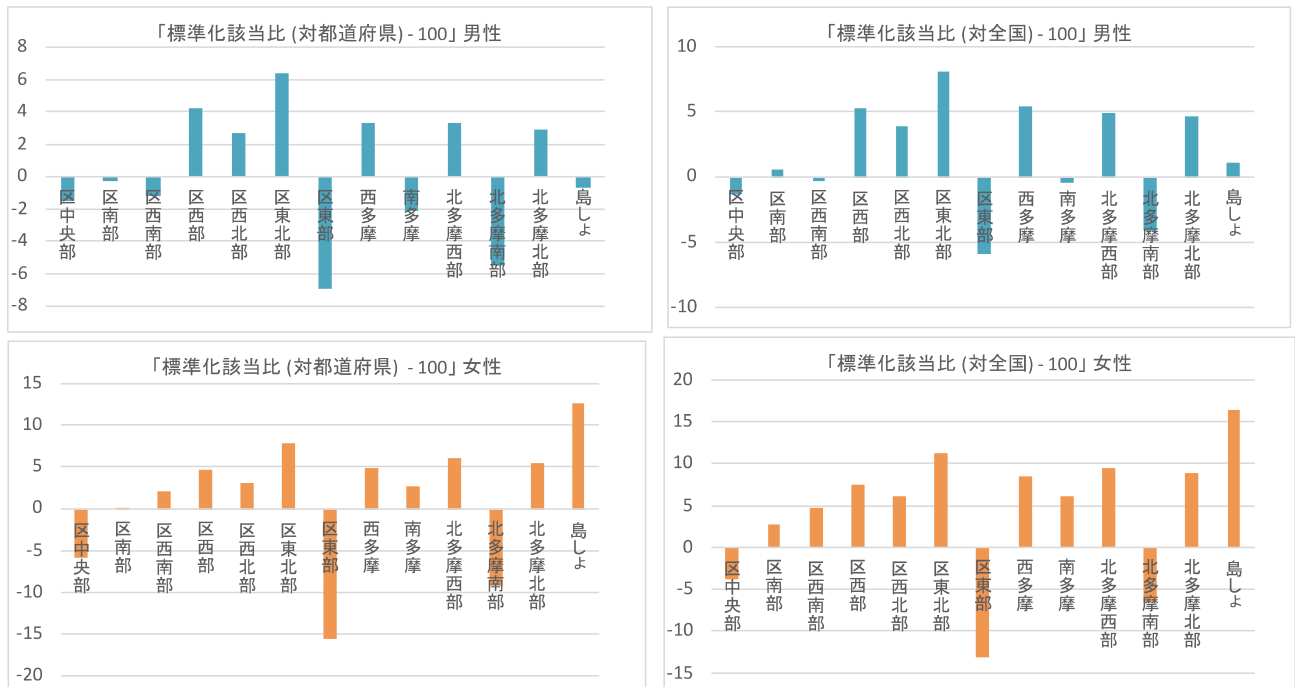
特定健診 標準的な質問票(質問項目17) 朝食を抜くことが週に3回以上ある :H27年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



特定健診 標準的な質問票(質問項目21) 運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いませんか :H26年度
 1:改善するつもりはない

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



特定健診 標準的な質問票(質問項目21) 運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いませんか :H26年度

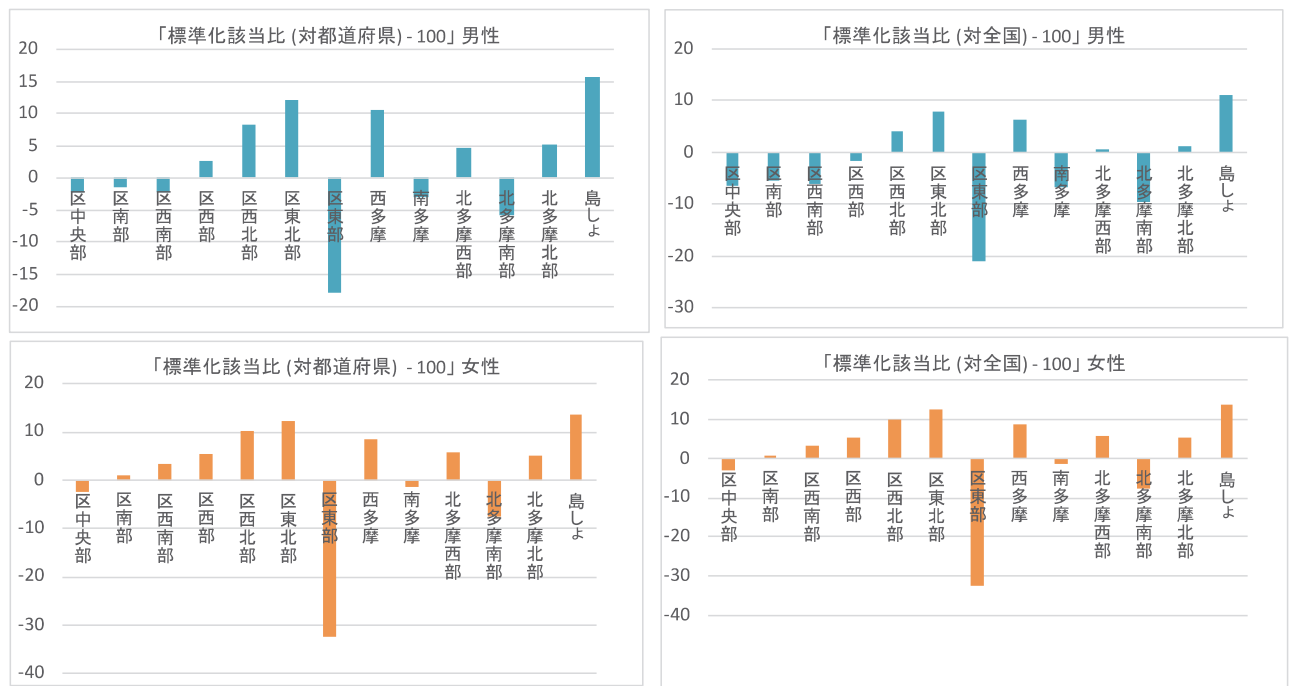
1:改善するつもりはない・2:改善するつもりである(概ね6か月以内)・3:近いうちに(概ね1か月以内)改善するつもりであり、少しずつ始めている

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



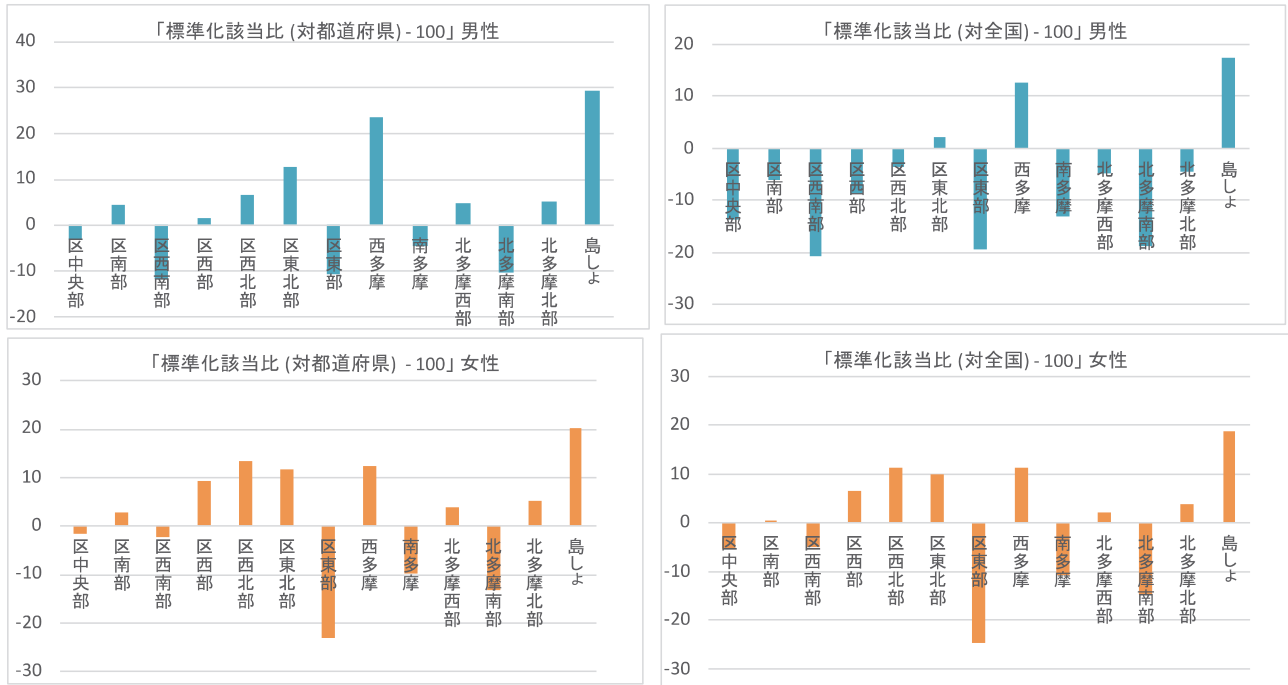
特定健診 標準的な質問票(質問項目21) 運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いませんか :H27年度
 1:改善するつもりはない

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



特定健診 標準的な質問票(質問項目21) 運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いませんか :H27年度

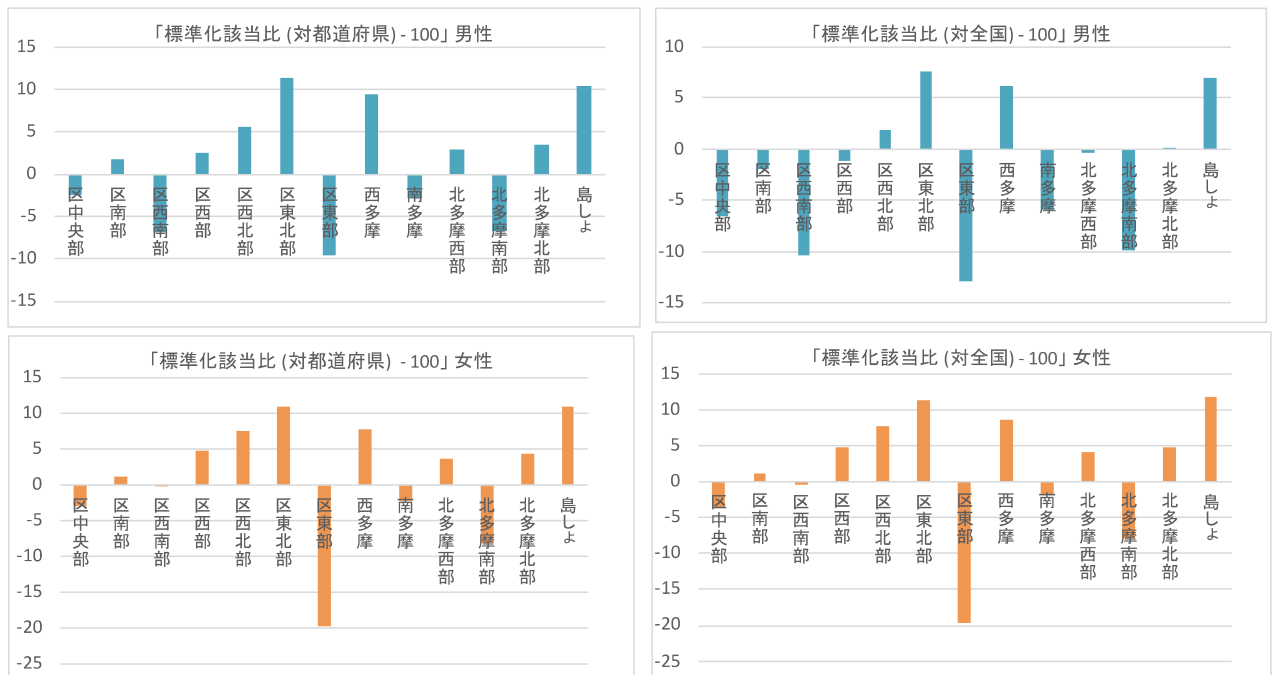
1:改善するつもりはない・2:改善するつもりである(概ね6か月以内)・3:近いうちに(概ね1か月以内)改善するつもりであり、少しずつ始めている

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



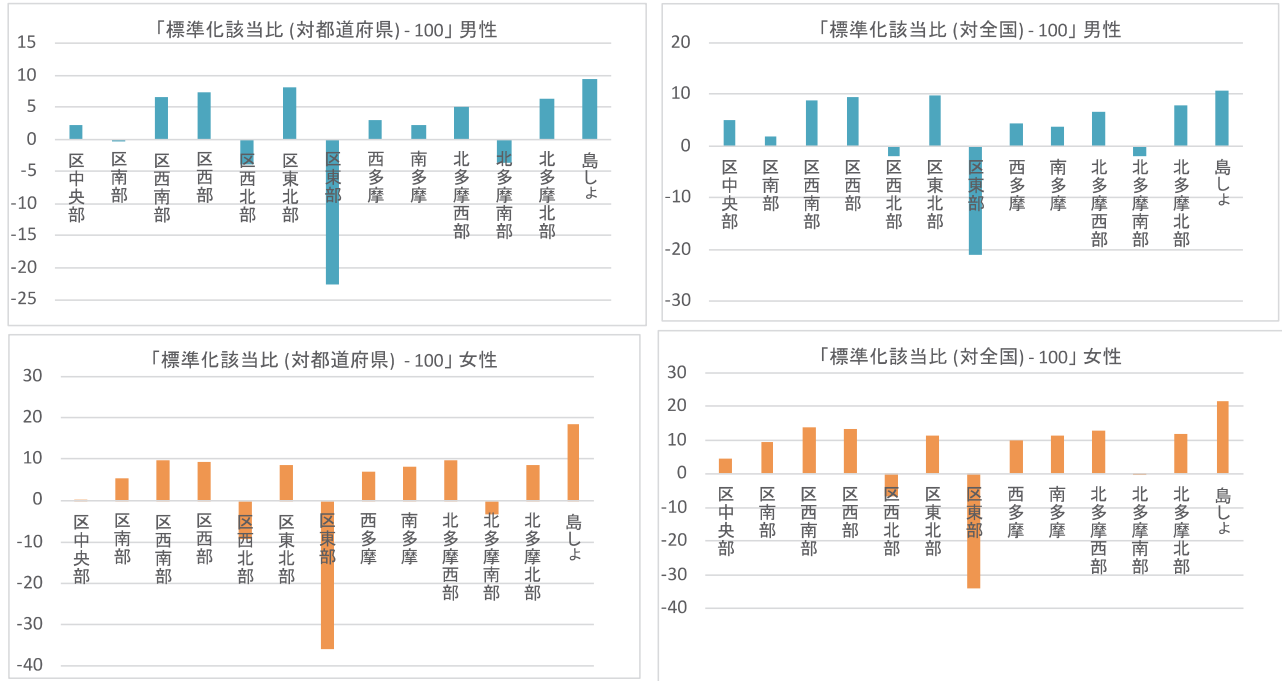
特定健診 標準的な質問票(質問項目22) 生活習慣の改善について保健指導を受ける機会があれば、利用しますか :H26年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



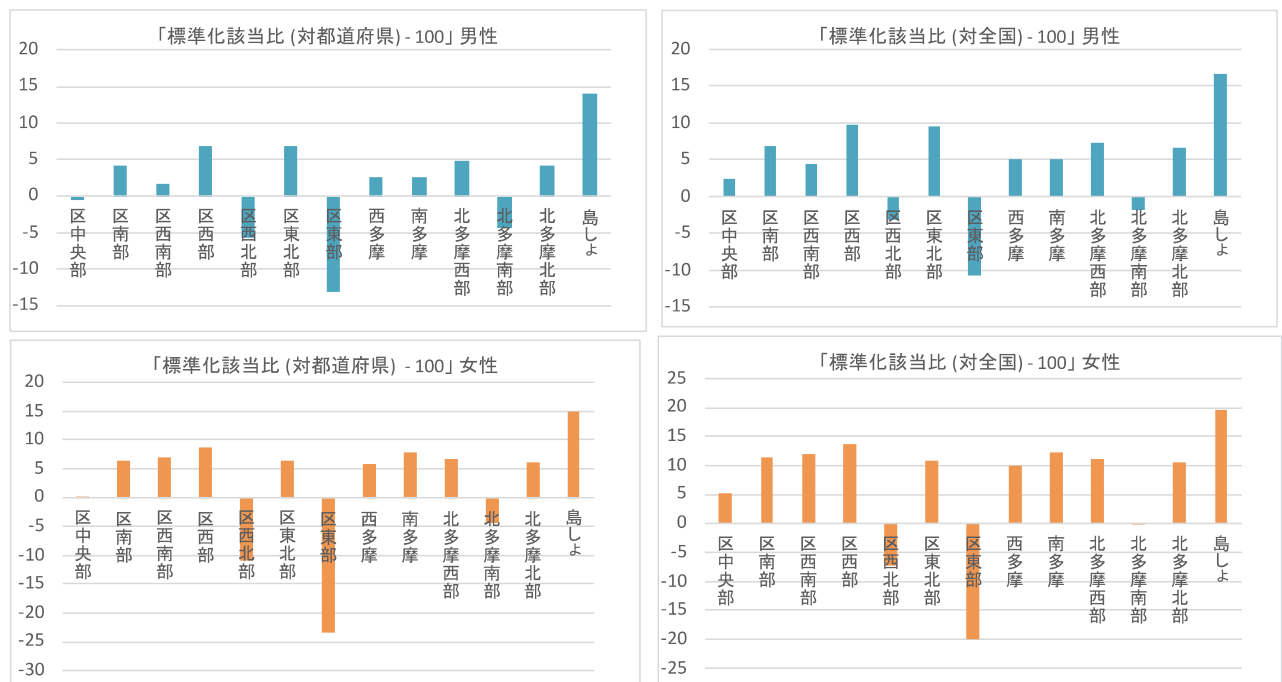
特定健診 標準的な質問票(質問項目22) 生活習慣の改善について保健指導を受ける機会があれば、利用しますか :H26年度

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



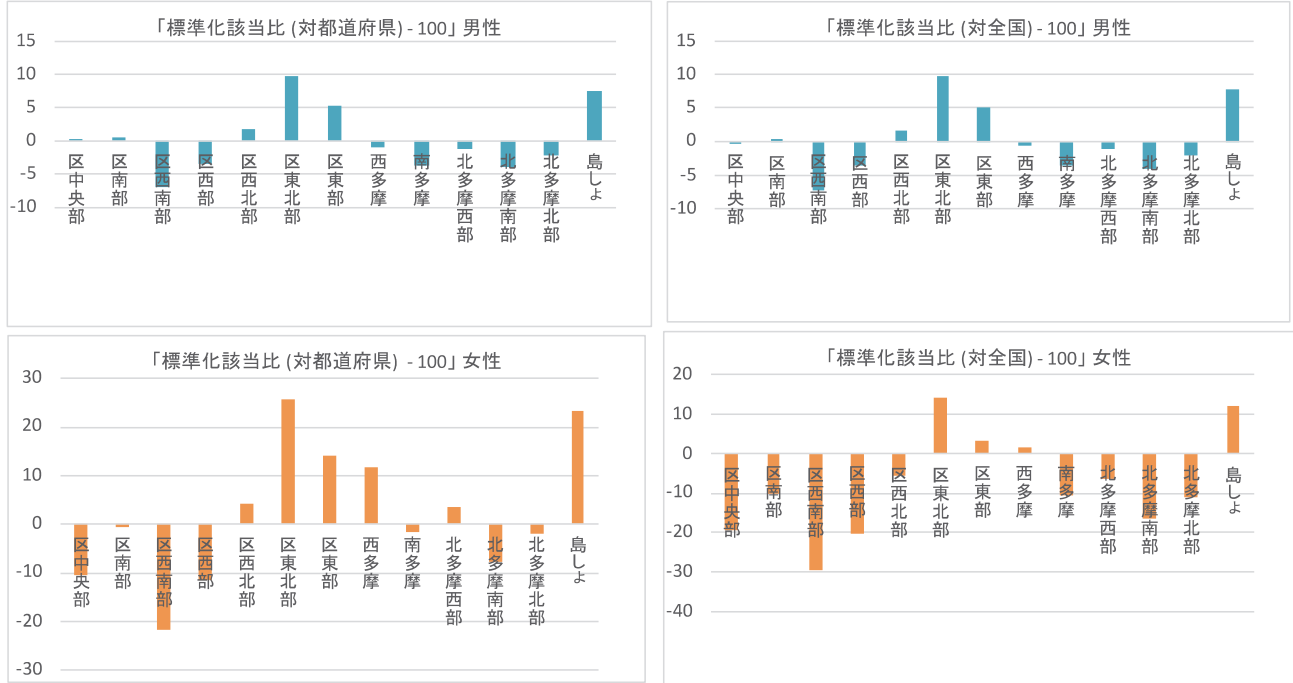
特定健診(BMI) : H26年度 25.0以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が○%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



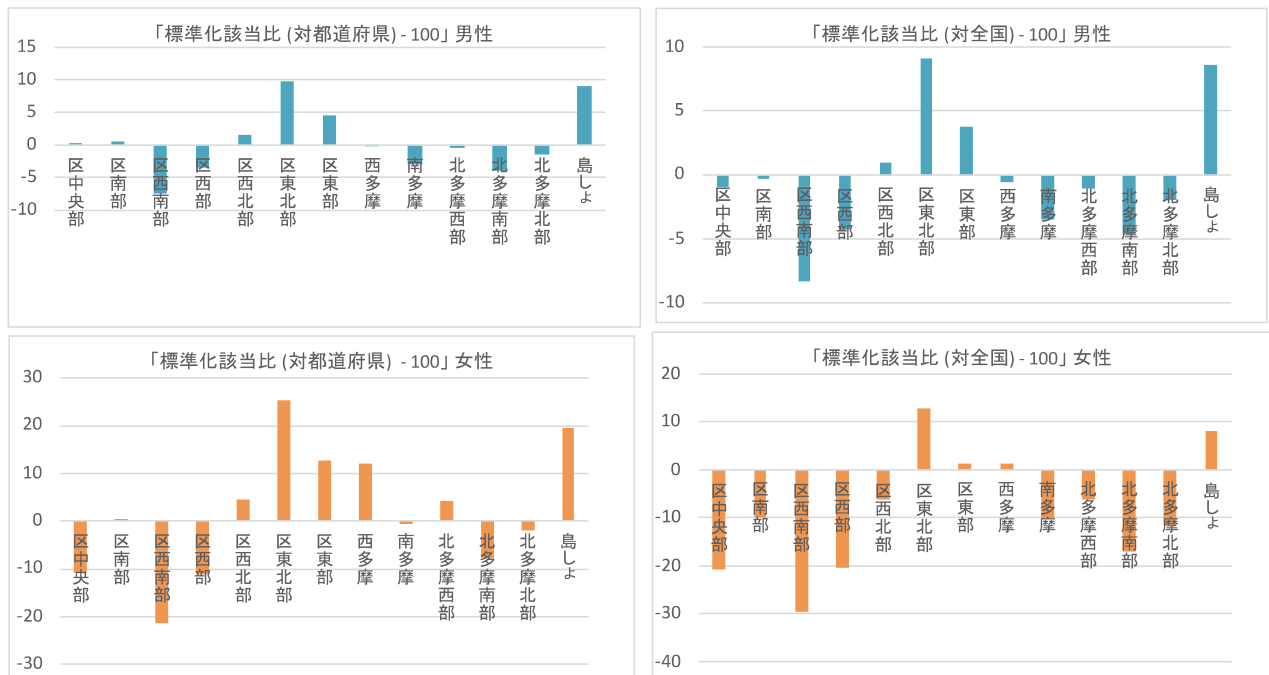
特定健診(BMI) : H27年度 25.0以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が○%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



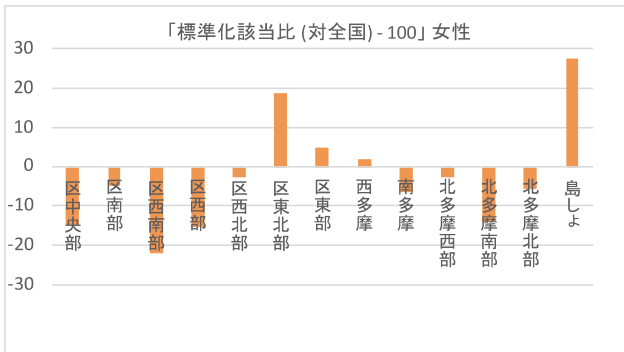
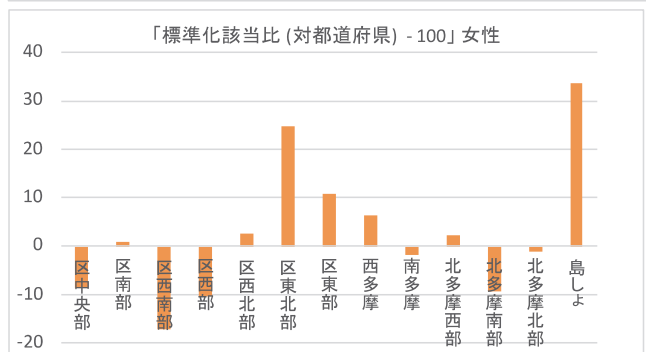
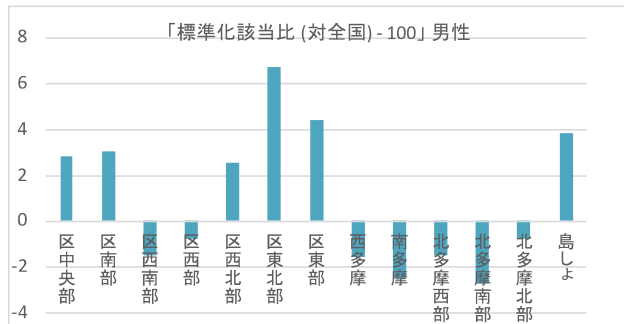
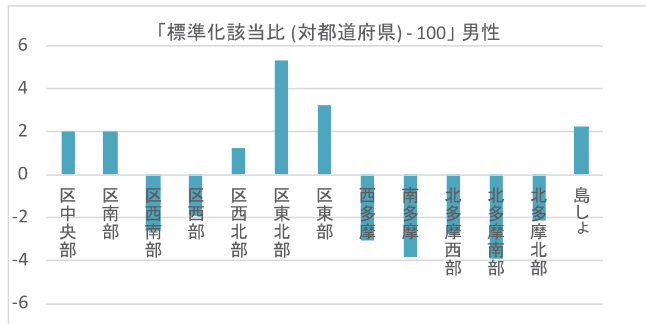
特定健診(腹囲) : H26年度 男性85以上、女性90以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



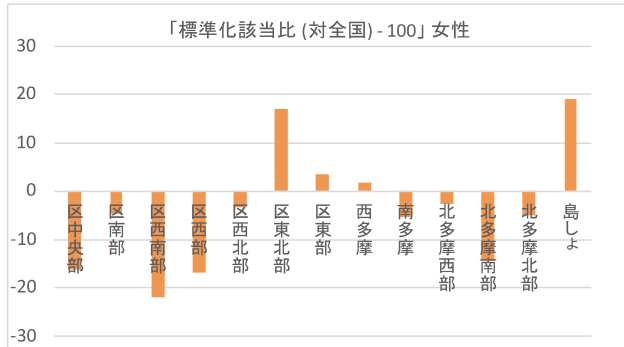
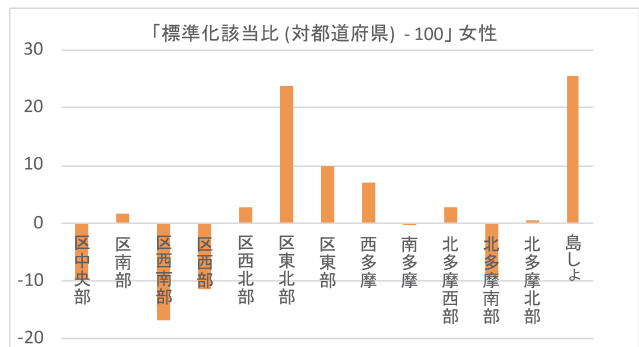
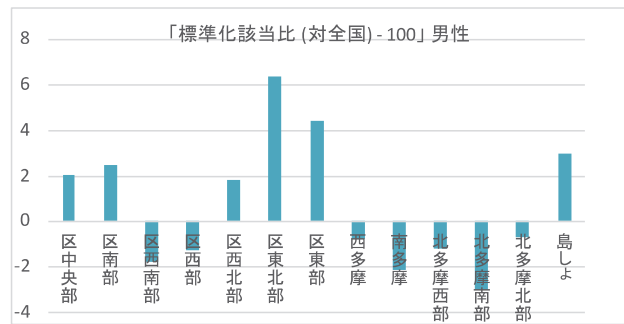
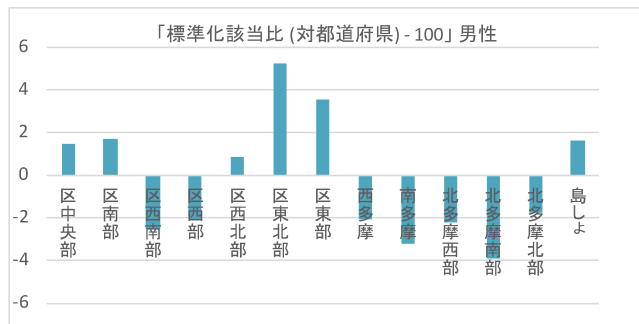
特定健診(腹囲) : H27年度 男性85以上、女性90以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



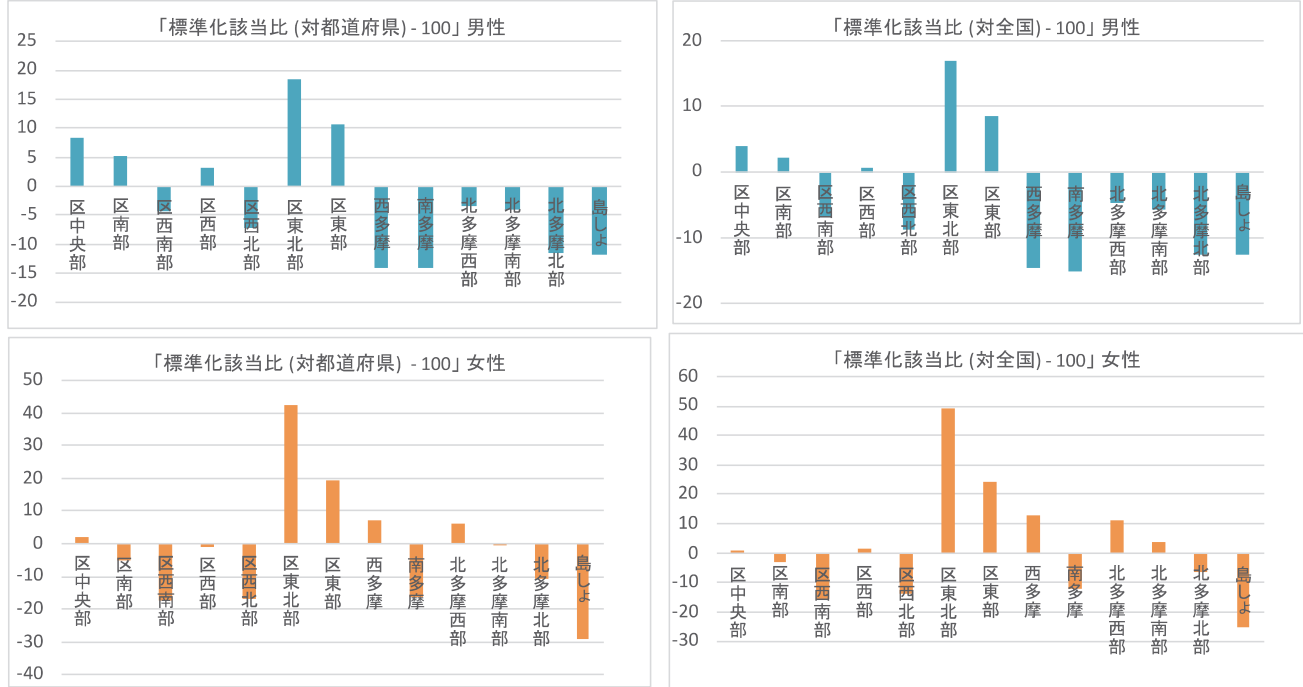
特定健診(空腹時血糖): H26年度 受診勧奨判定値 126以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



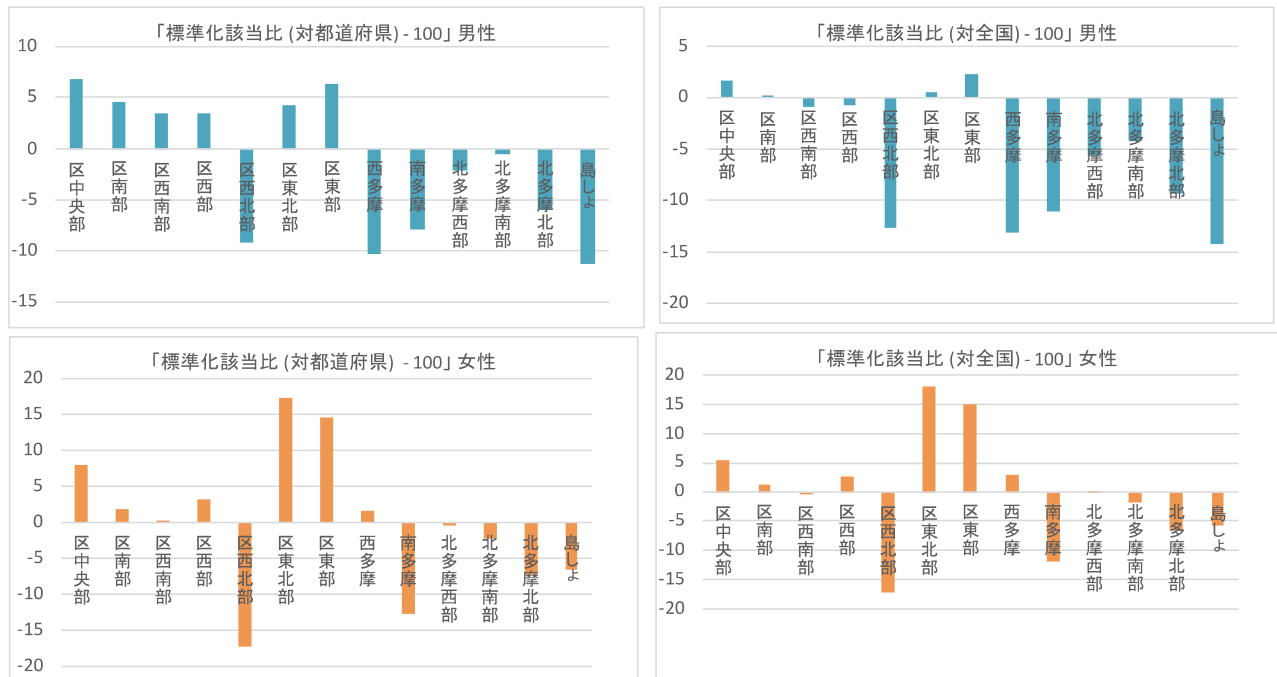
特定健診(空腹時血糖): H26年度 保健指導判定値 100以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



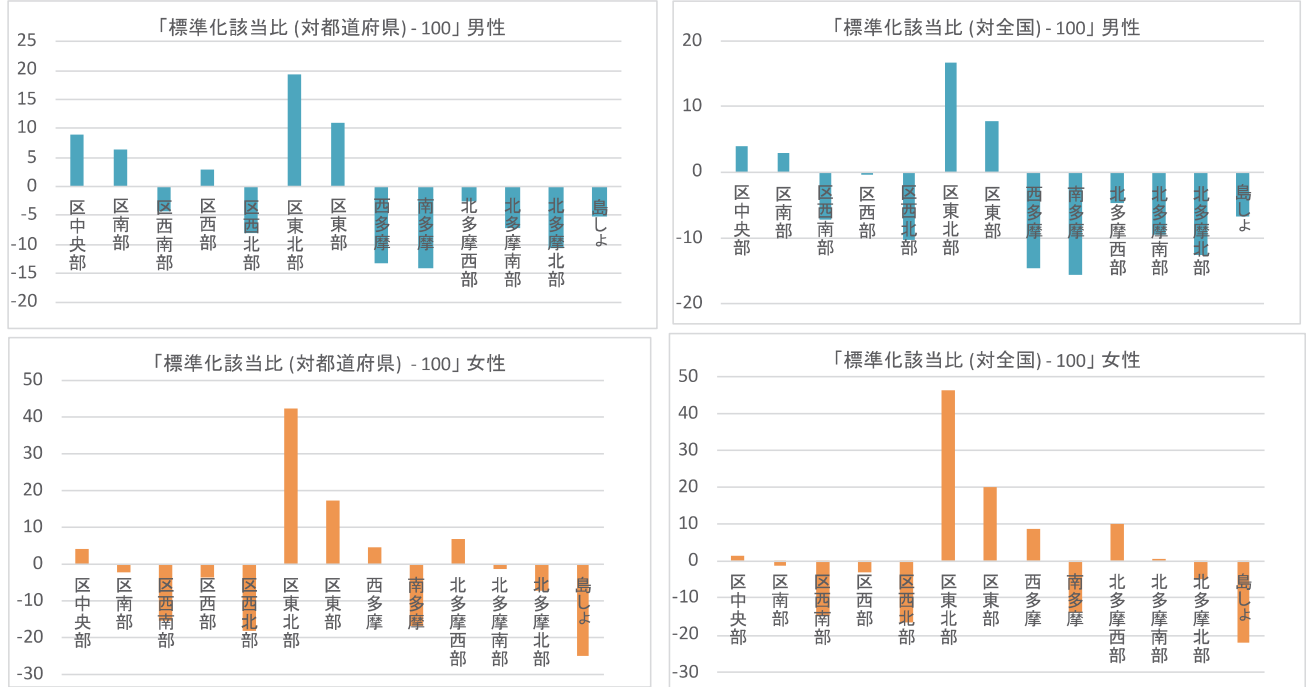
特定健診(空腹時血糖): H27年度 受診勧奨判定値 126以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



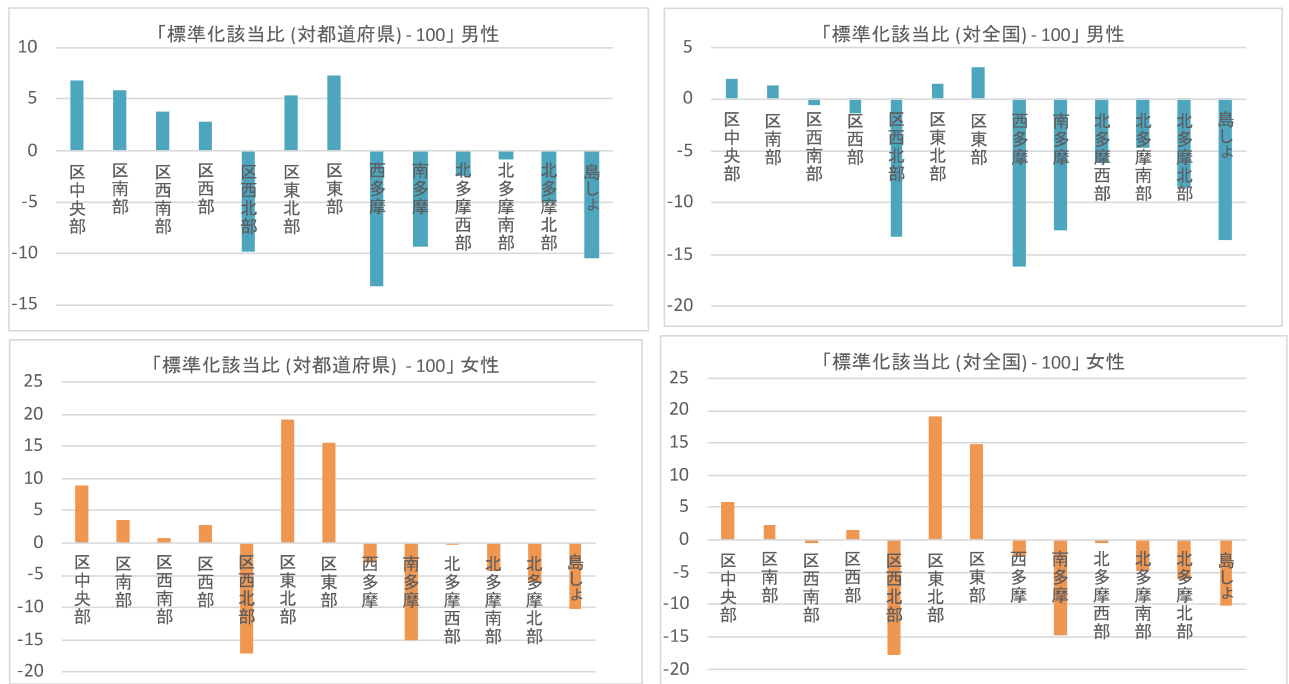
特定健診(空腹時血糖): H27年度 保健指導判定値 100以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



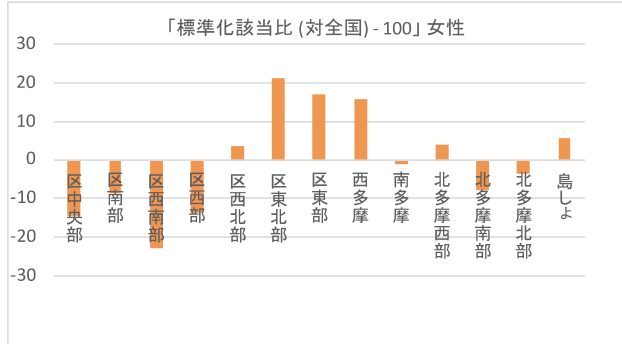
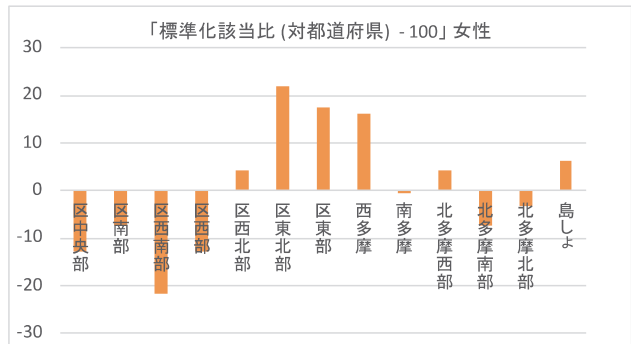
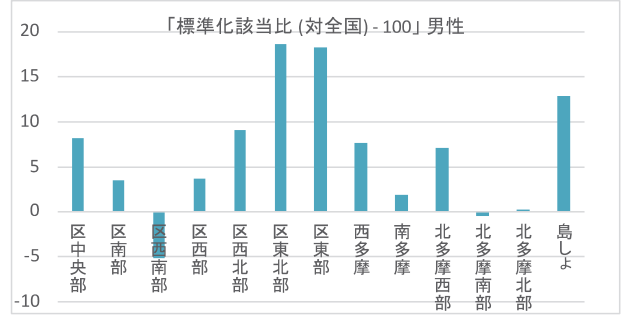
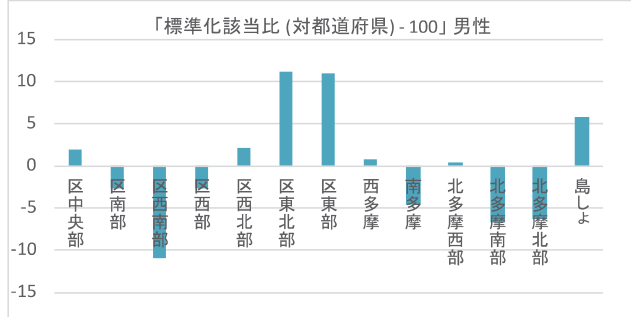
特定健診(HbA1c) : H26年度 受診勧奨判定値 6.5以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



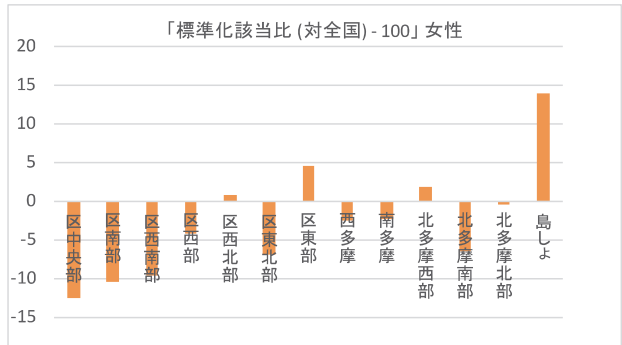
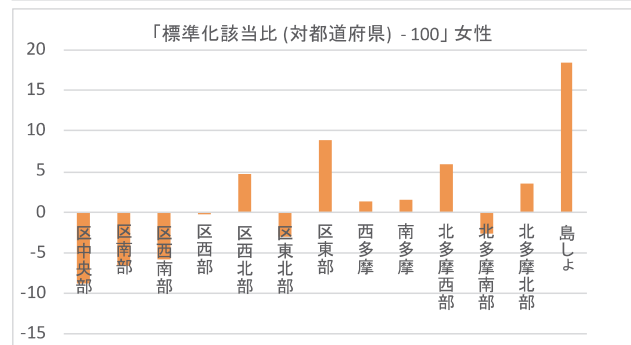
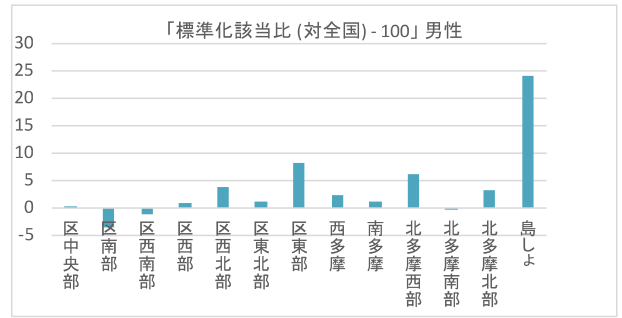
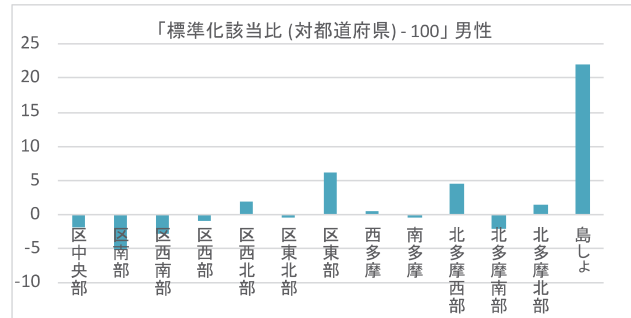
特定健診(HbA1c) : H26年度 保健指導判定値 5.6以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



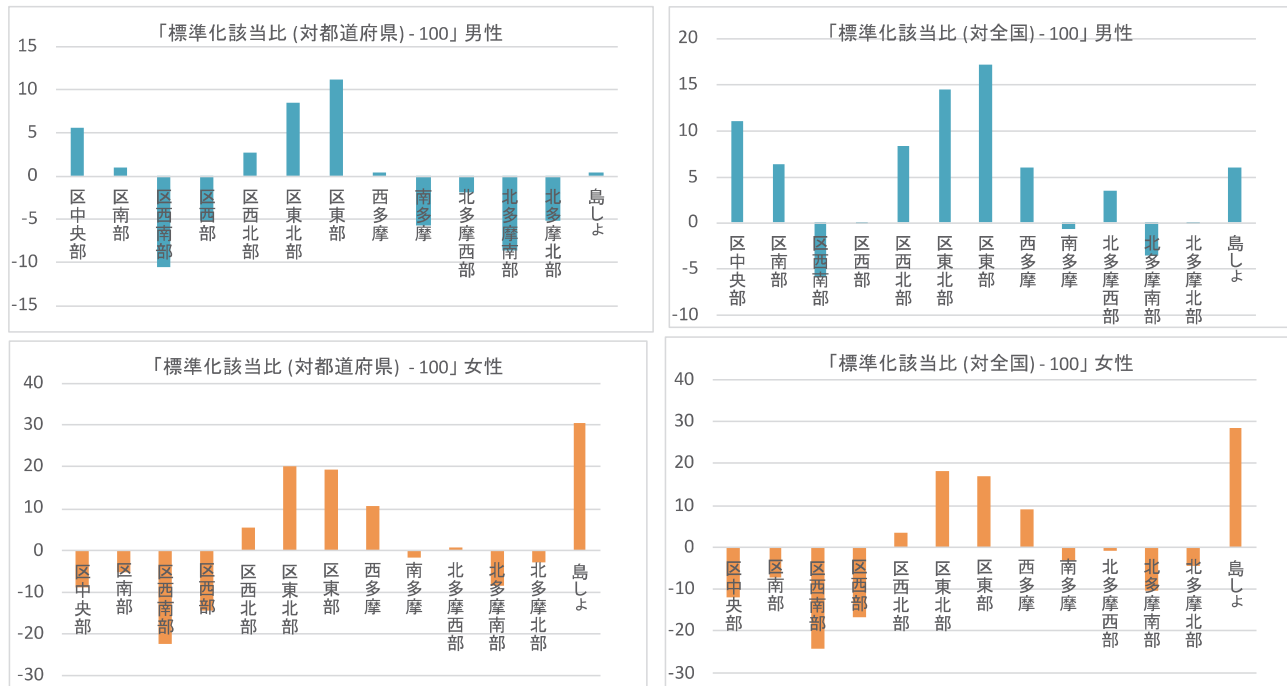
特定健診(HbA1c) : H27年度 受診勧奨判定値 6.5以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



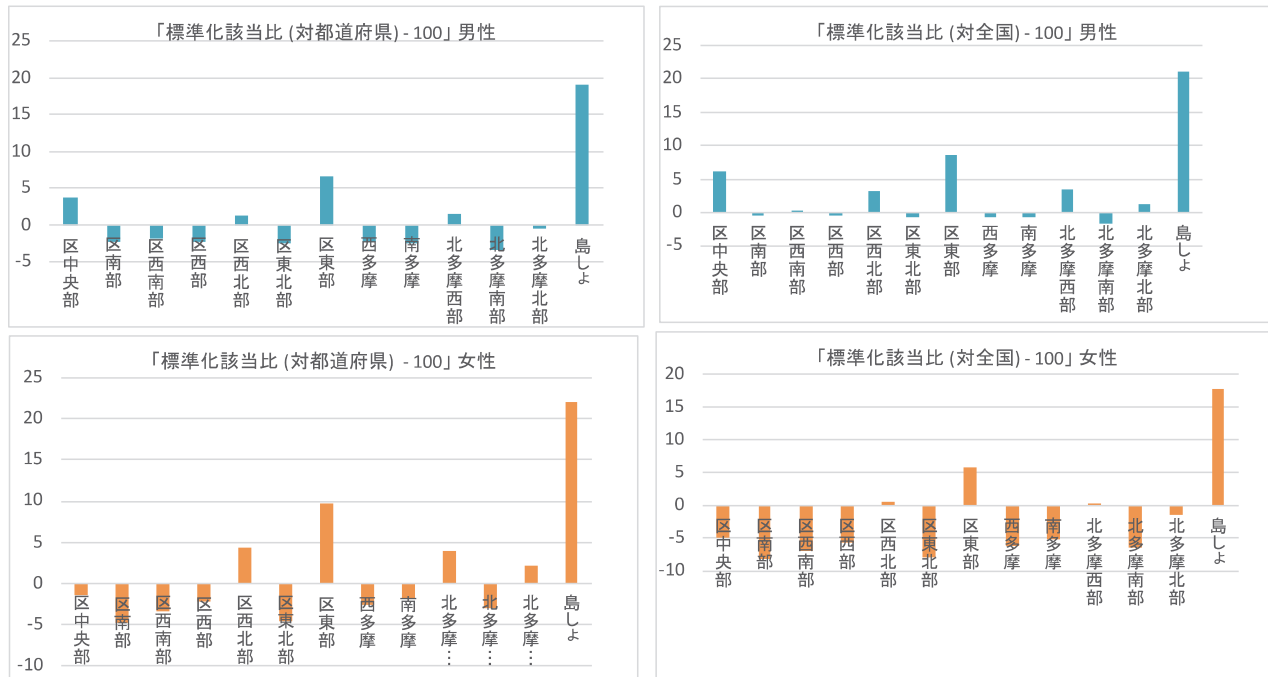
特定健診(HbA1c) : H27年度 保健指導判定値 5.6以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



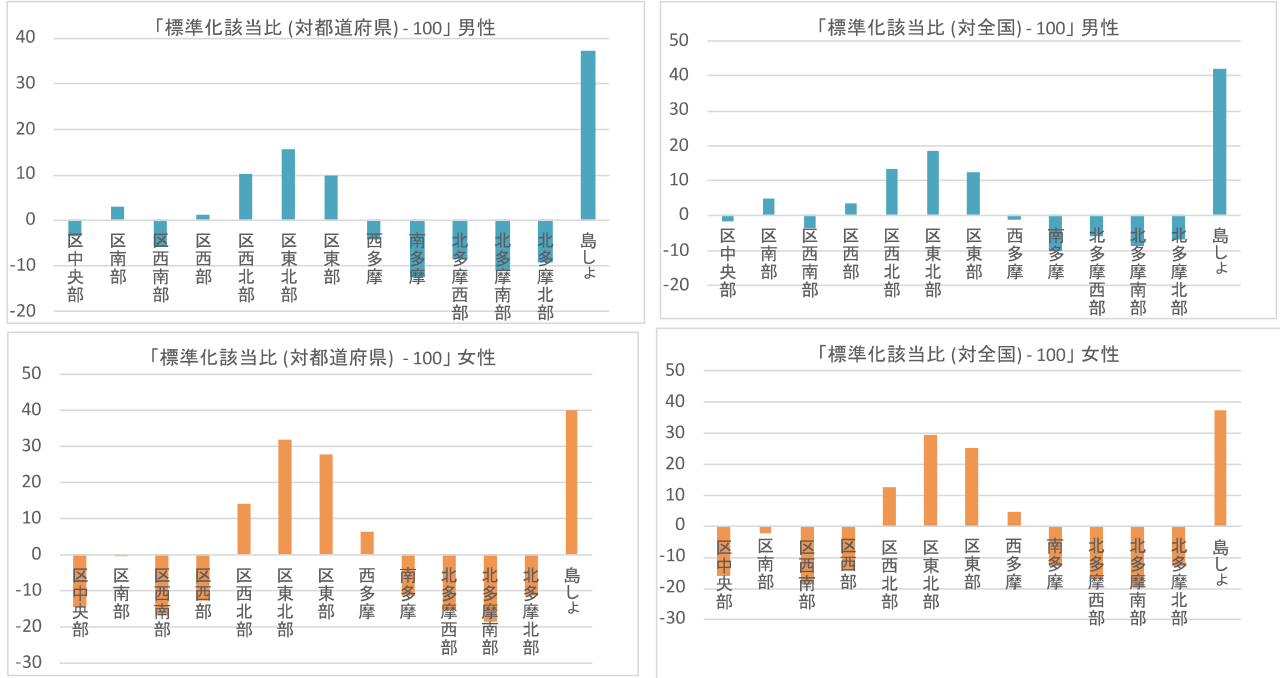
特定健診(中性脂肪): H26年度 受診勧奨判定値 300以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



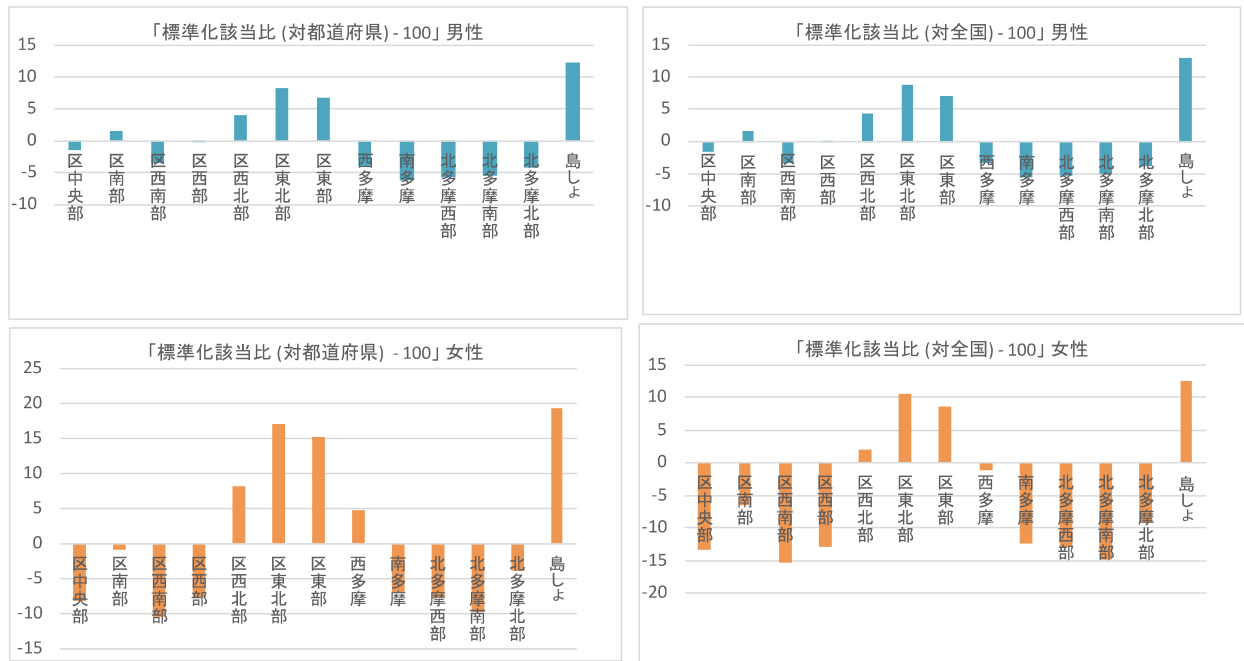
特定健診(中性脂肪): H26年度 保健指導判定値 150以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



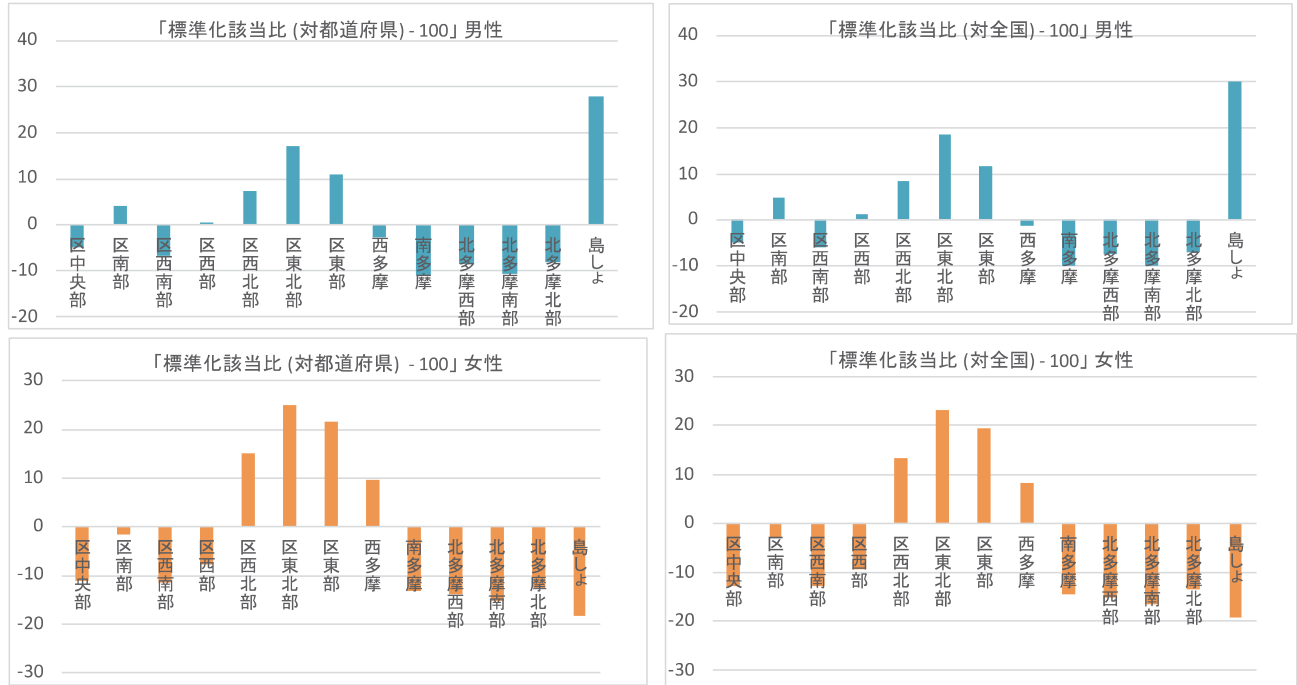
特定健診(中性脂肪): H27年度 受診勧奨判定値 300以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



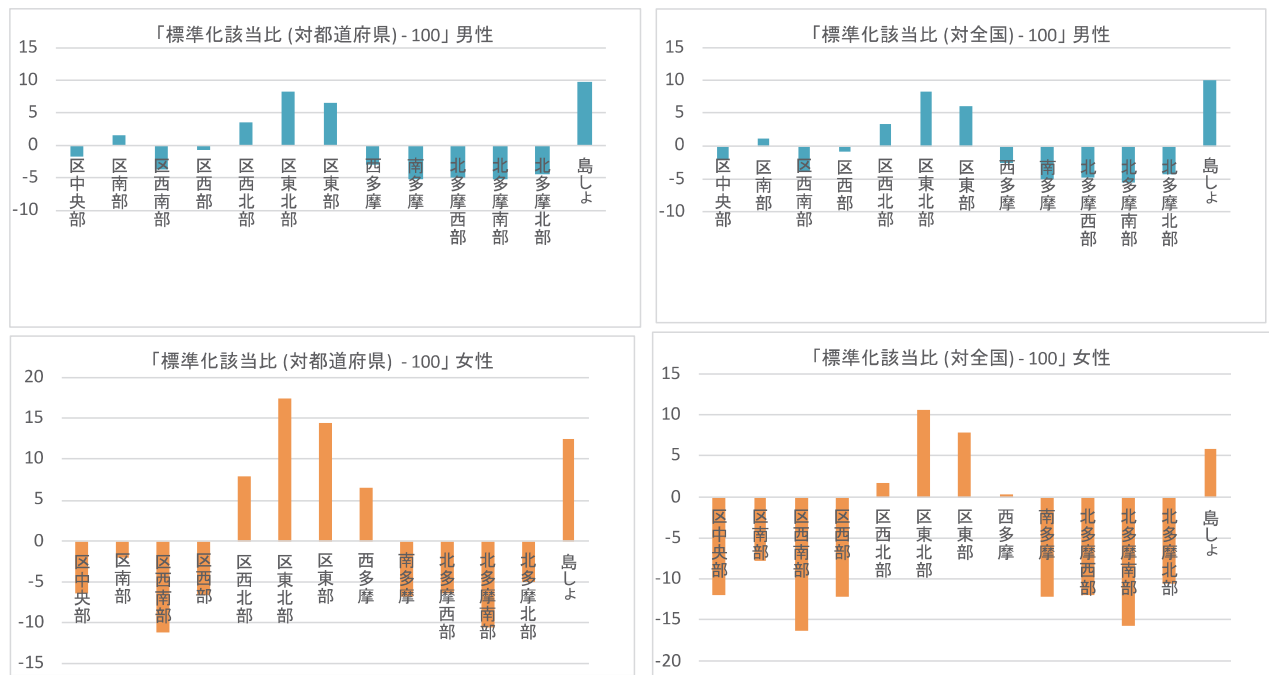
特定健診(中性脂肪): H27年度 保健指導判定値 150以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



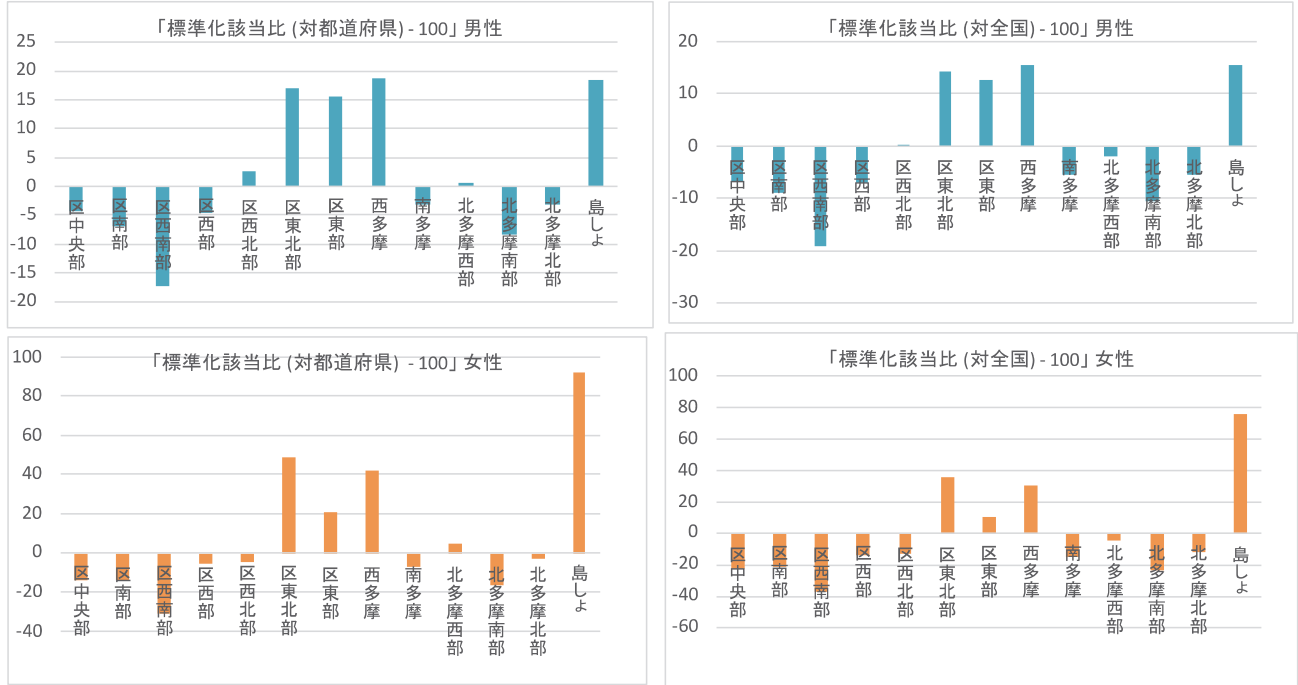
特定健診(HDLコレステロール): H26年度 受診勧奨判定値 35未満

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



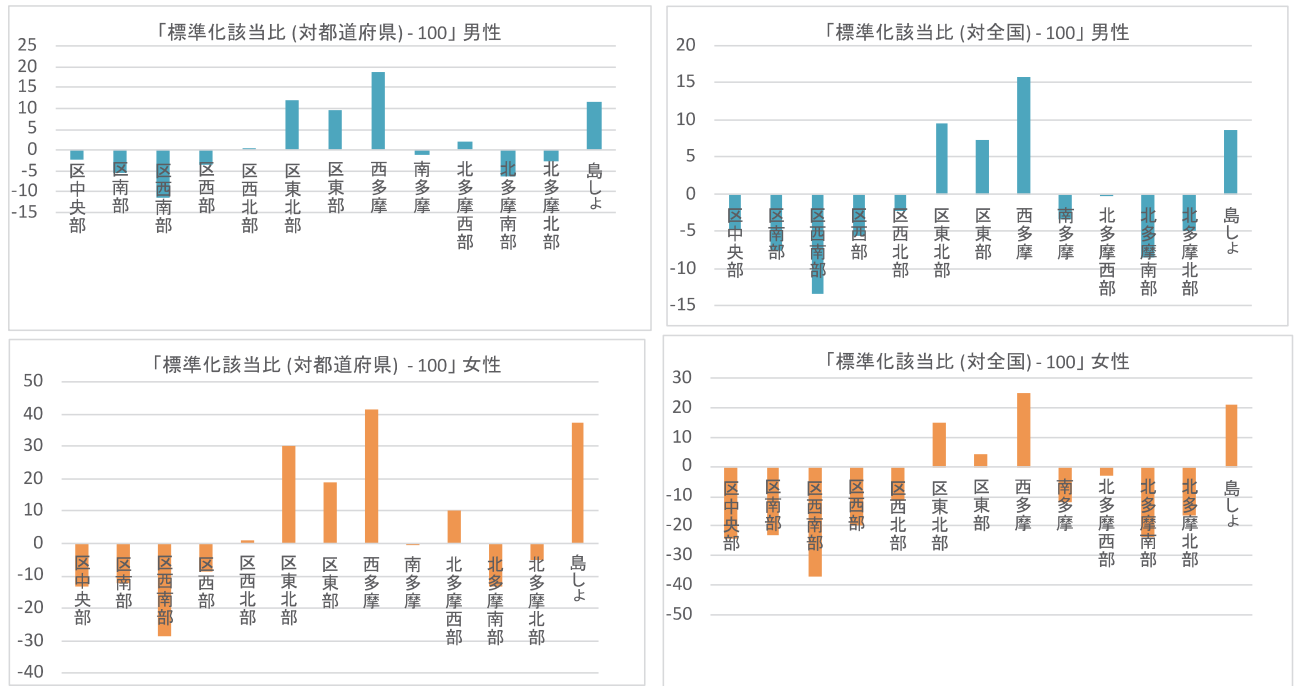
特定健診(HDLコレステロール): H26年度 保健指導判定値 40未満

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



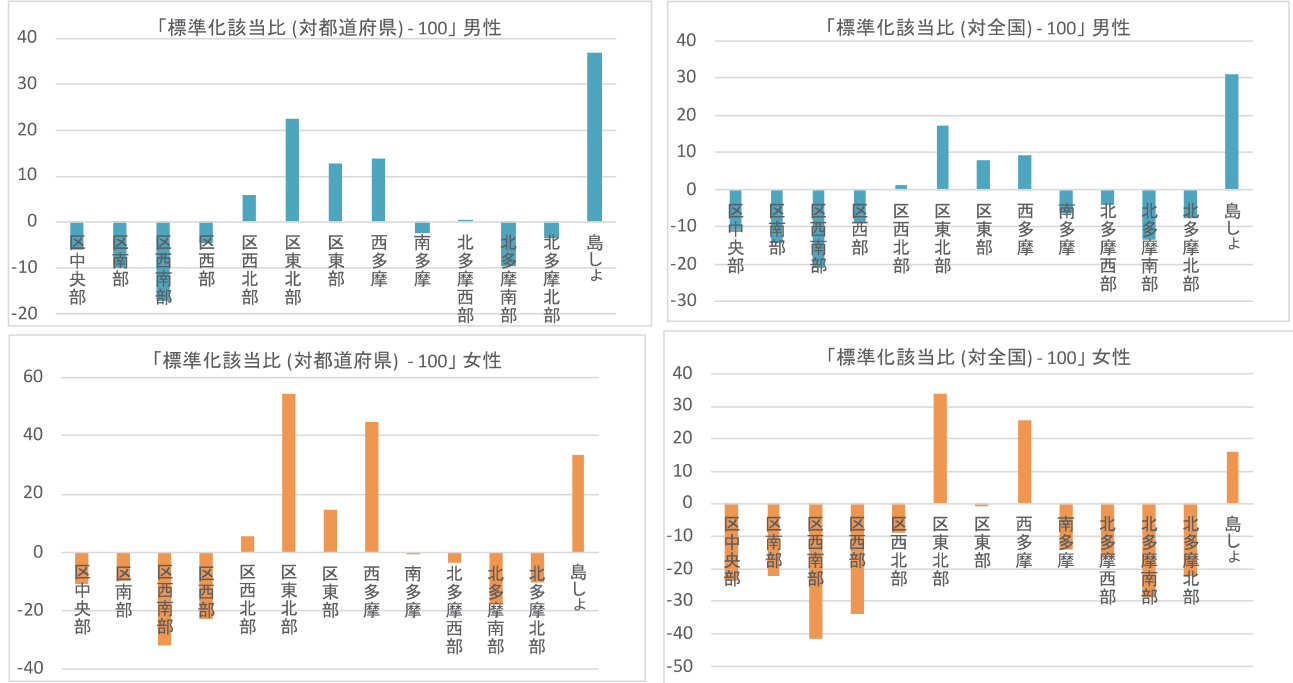
特定健診(HDLコレステロール): H27年度 受診勧奨判定値 35未満

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



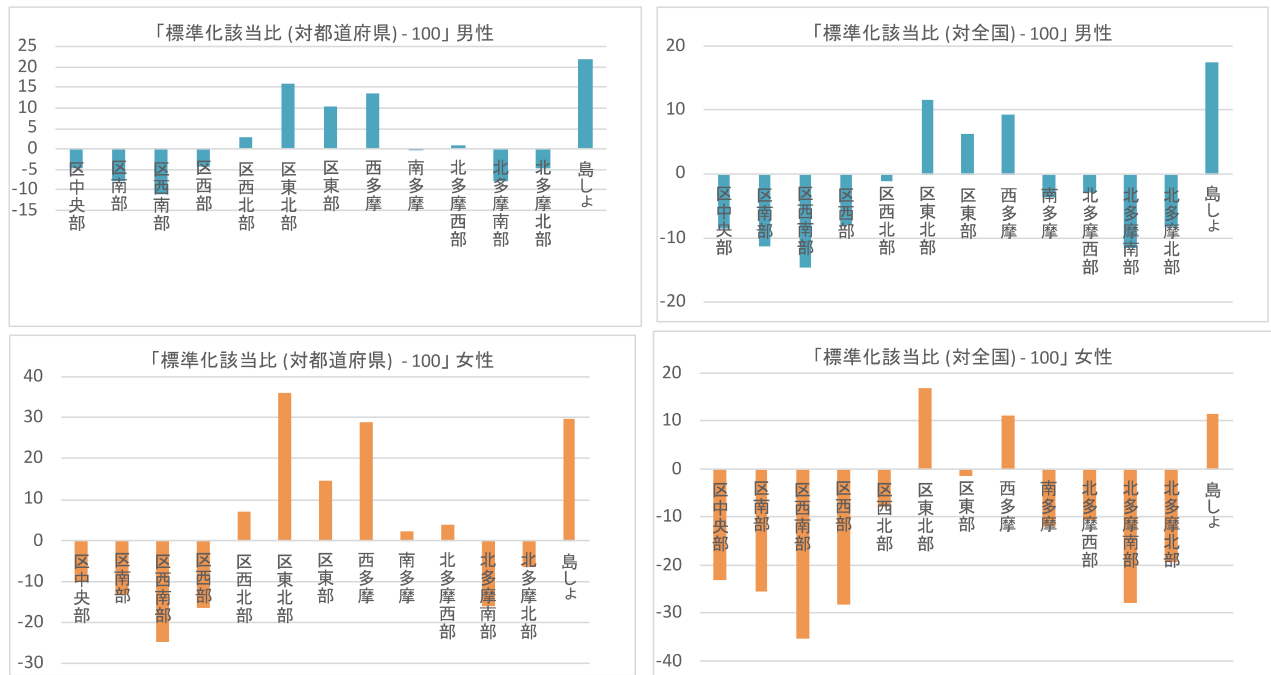
特定健診(HDLコレステロール): H27年度 保健指導判定値 40未満

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



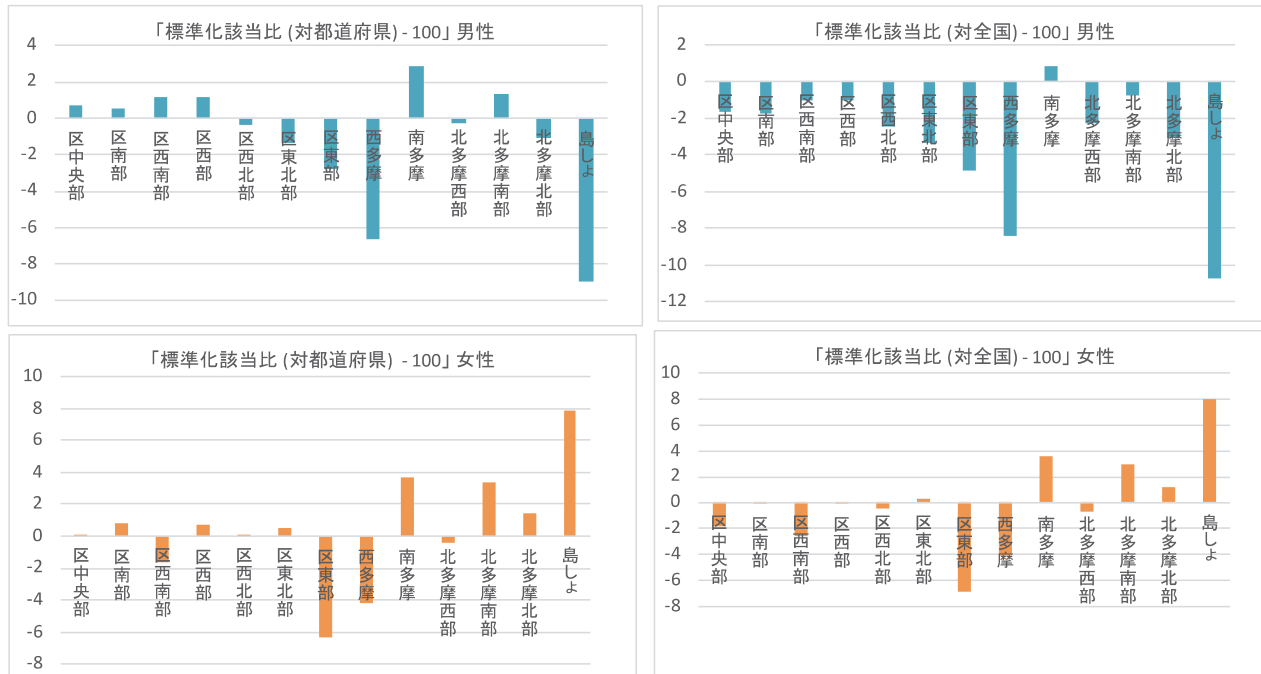
特定健診(LDLコレステロール) : H26年度 受診勧奨判定値 140以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



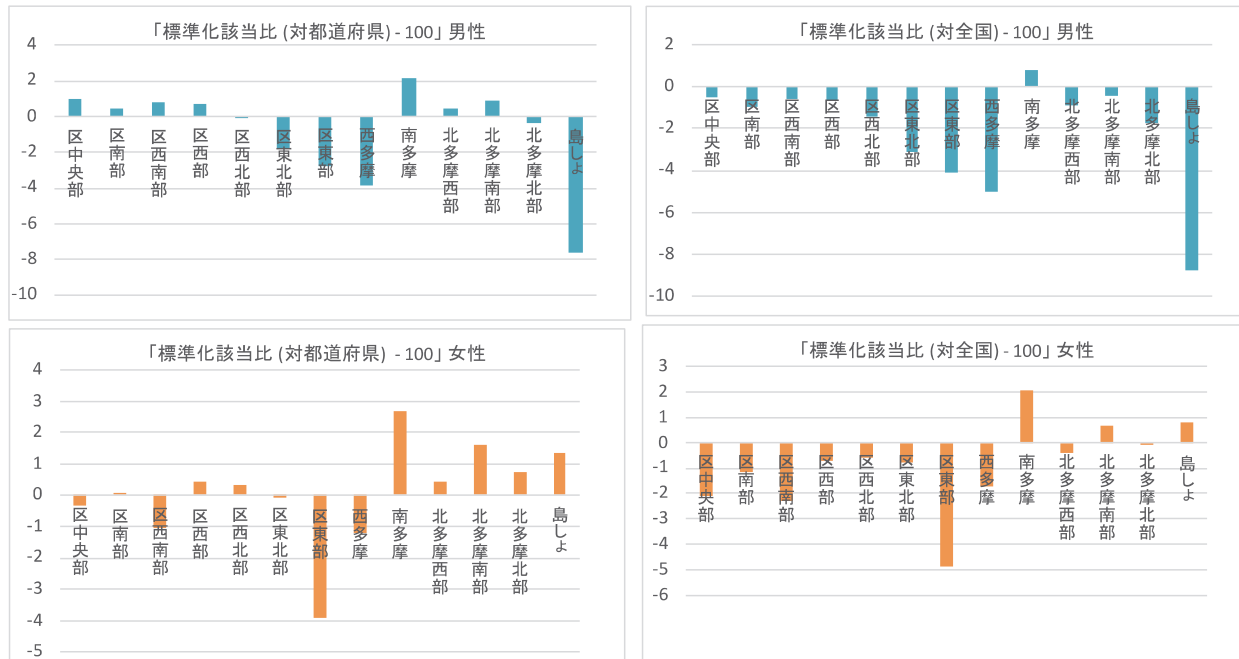
特定健診(LDLコレステロール) : H26年度 保健指導判定値 120以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



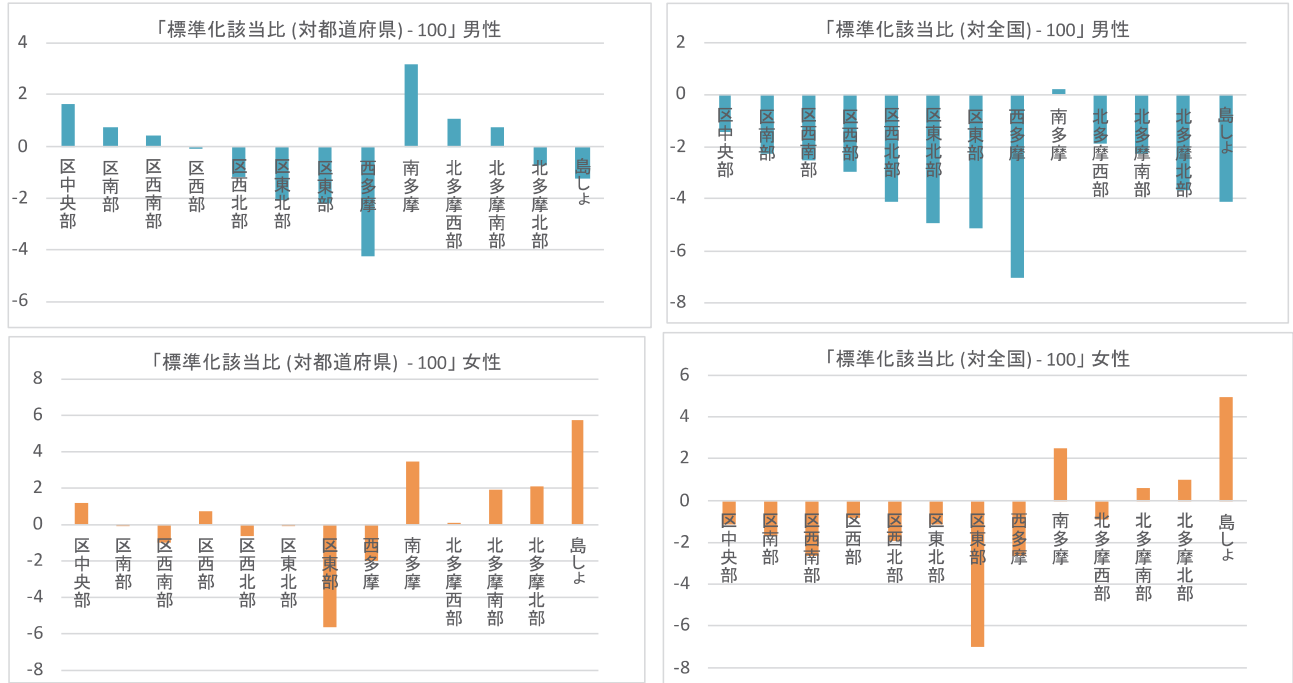
特定健診(LDLコレステロール): H27年度 受診勧奨判定値 140以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



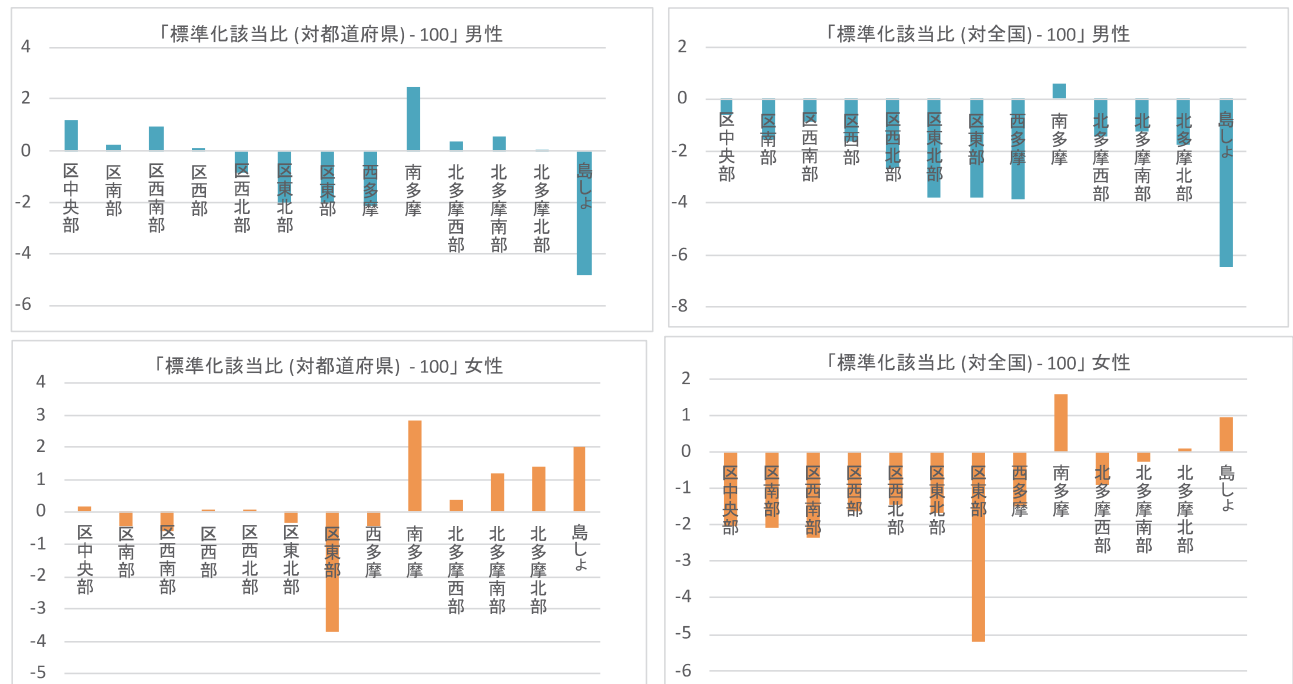
特定健診(LDLコレステロール): H27年度 保健指導判定値 120以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



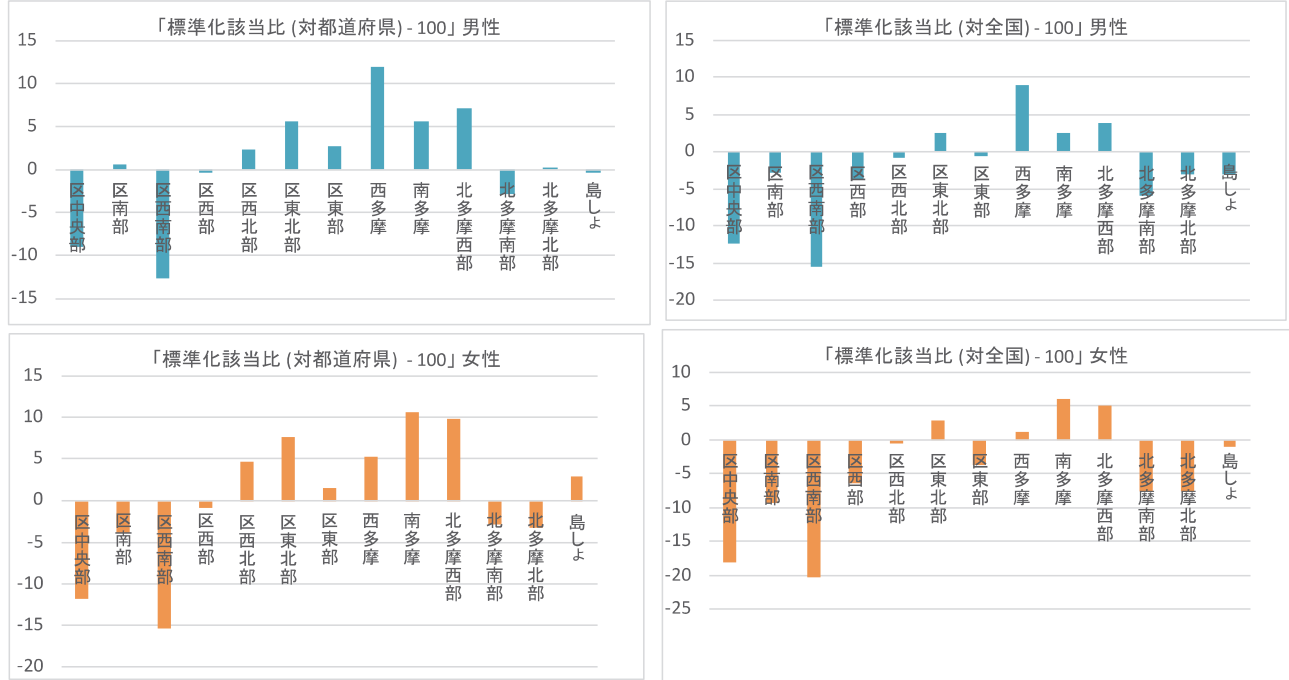
特定健診(拡張期血圧): H26年度 受診勧奨判定値 90以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



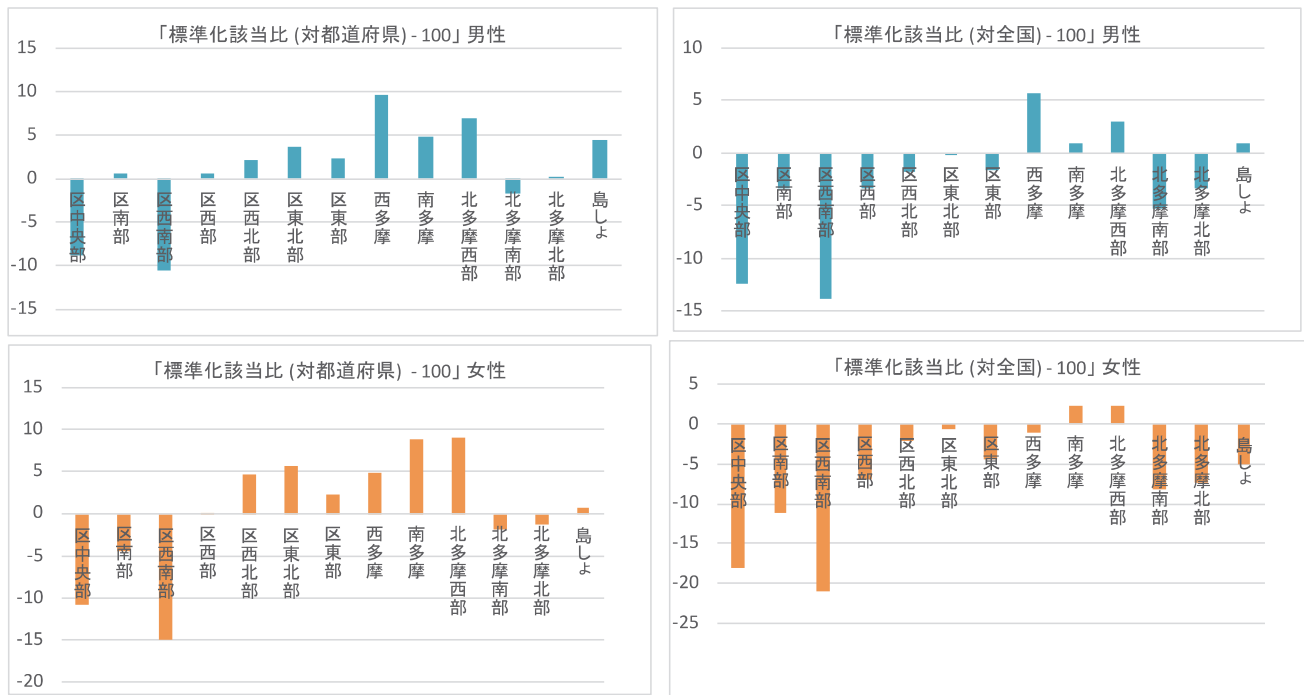
特定健診(拡張期血圧): H26年度 保健指導判定値 85以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



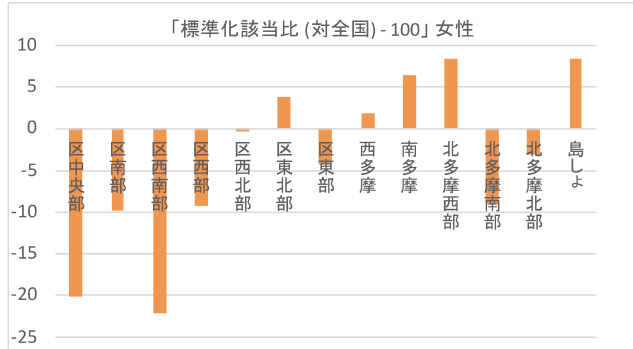
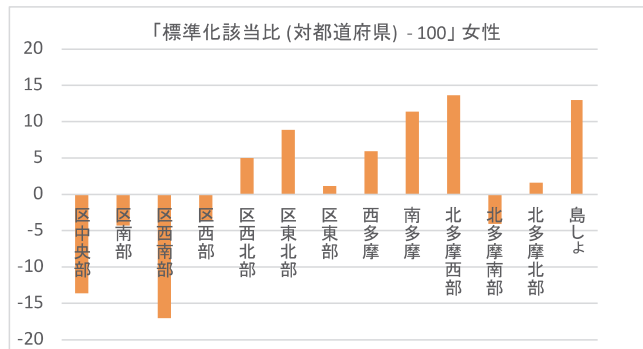
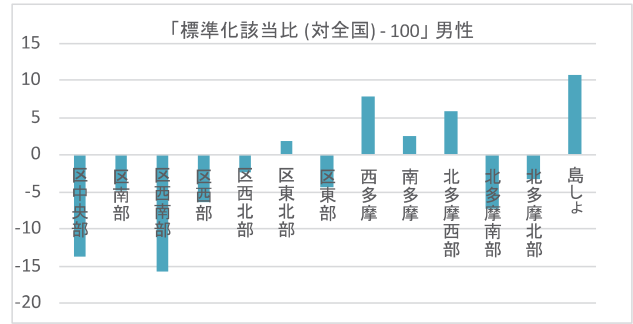
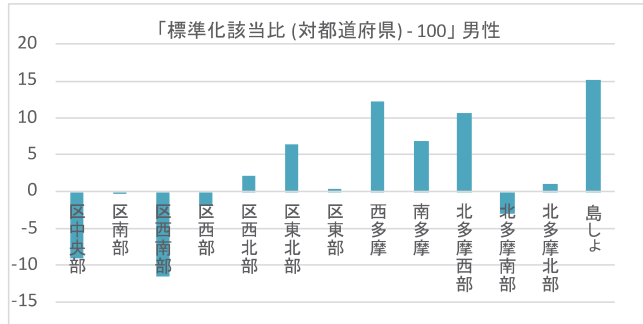
特定健診(拡張期血圧): H27年度 受診勧奨判定値 90以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



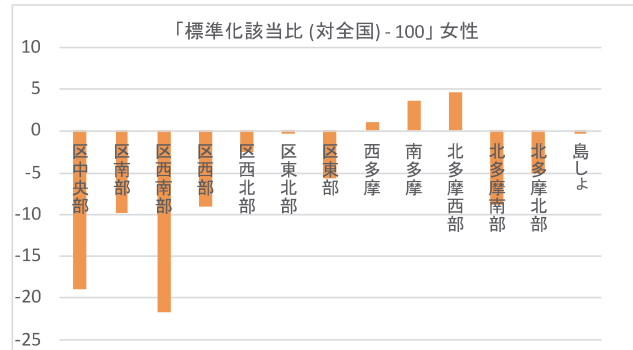
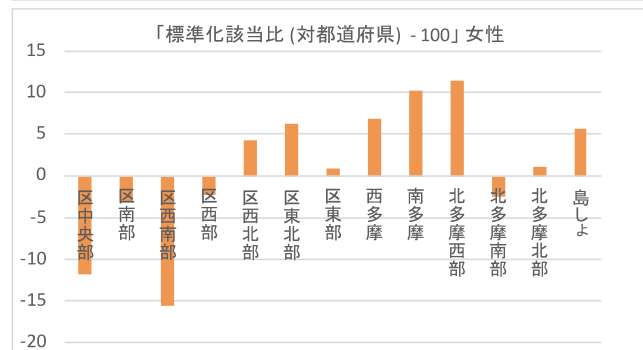
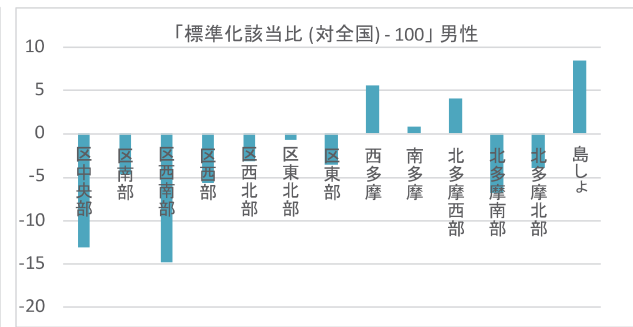
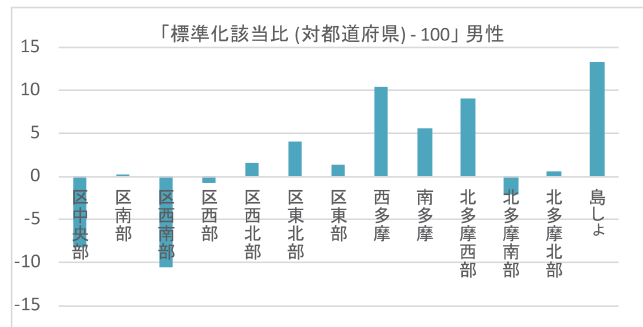
特定健診(拡張期血圧): H27年度 保健指導判定値 85以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



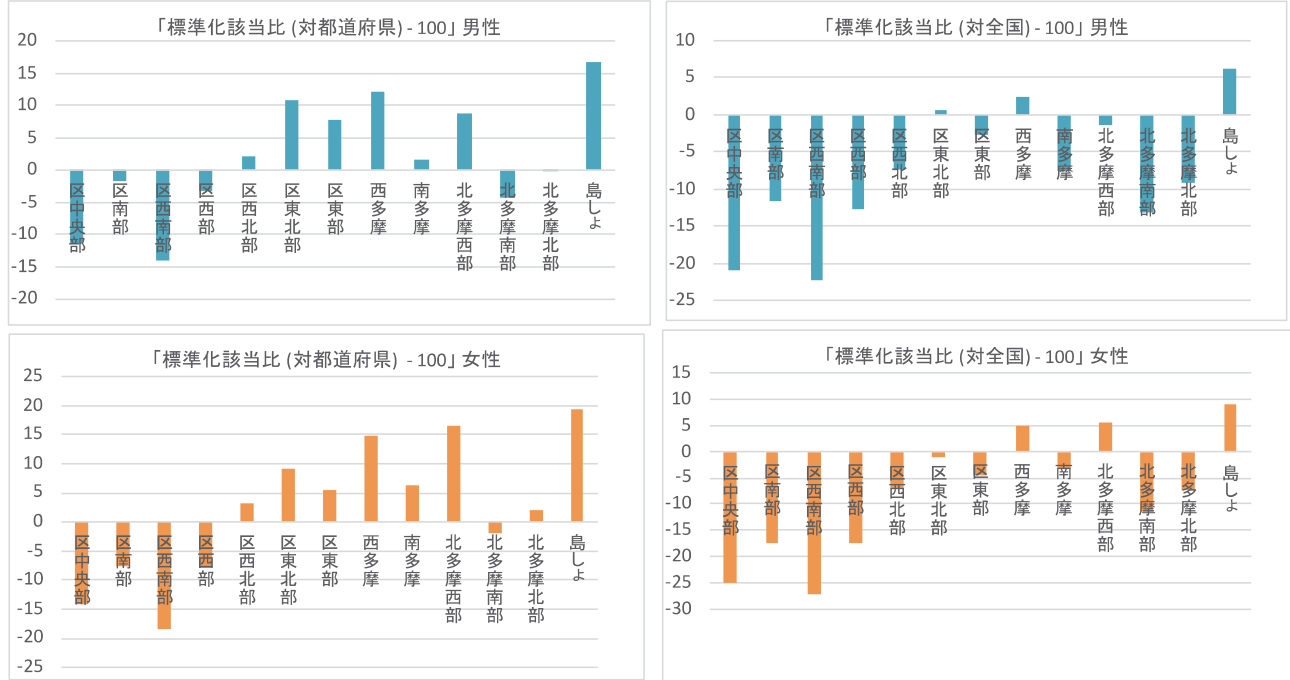
特定健診(収縮期血圧): H26年度 受診勧奨判定値 140以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



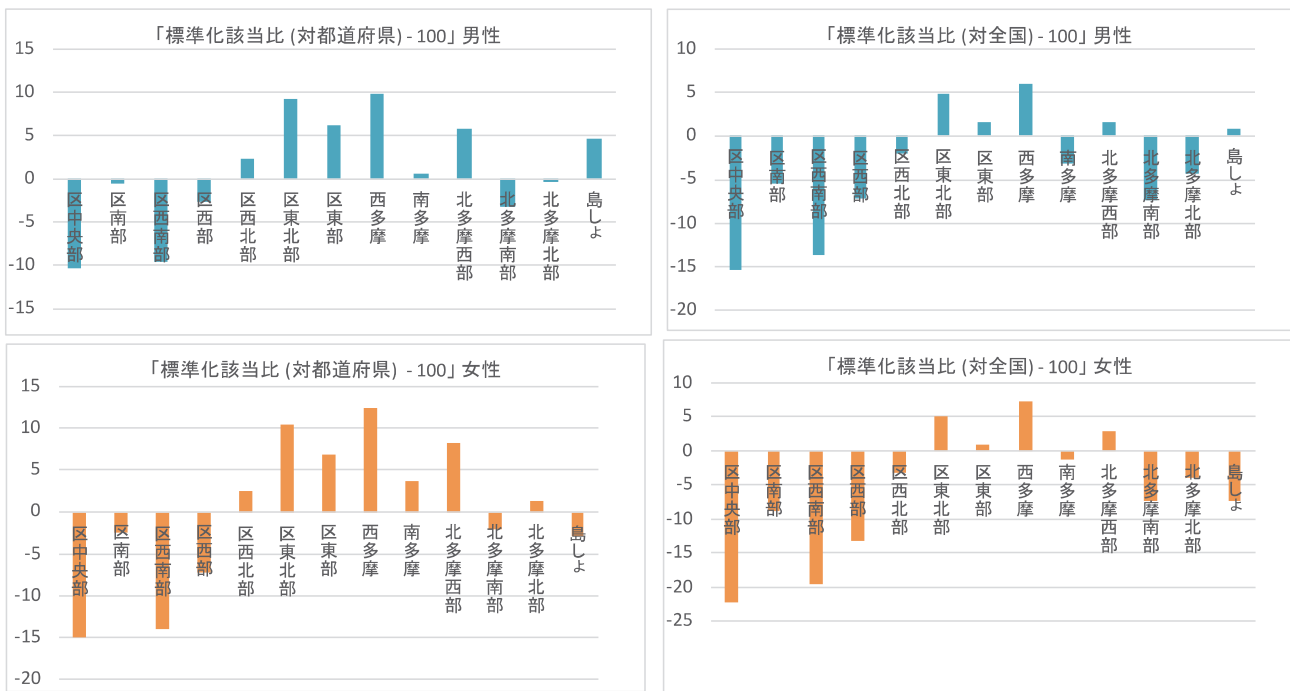
特定健診(収縮期血圧): H26年度 保健指導判定値 130以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



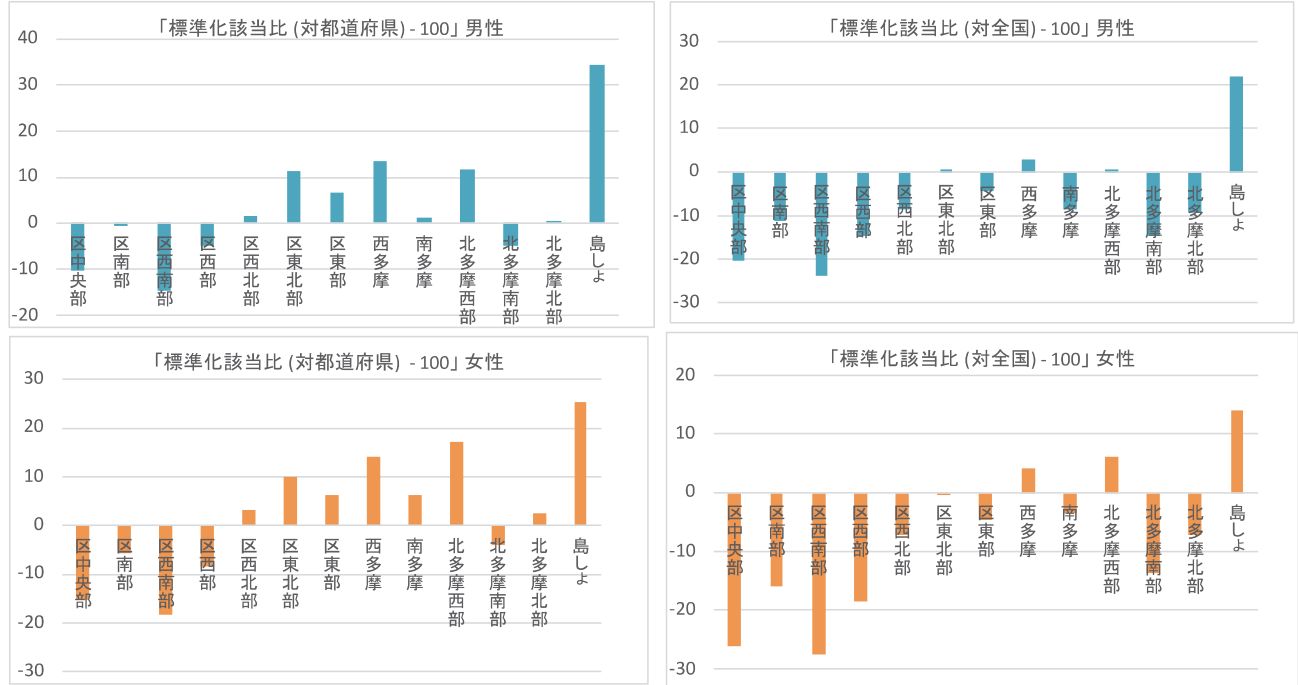
特定健診(収縮期血圧): H27年度 受診勧奨判定値 140以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



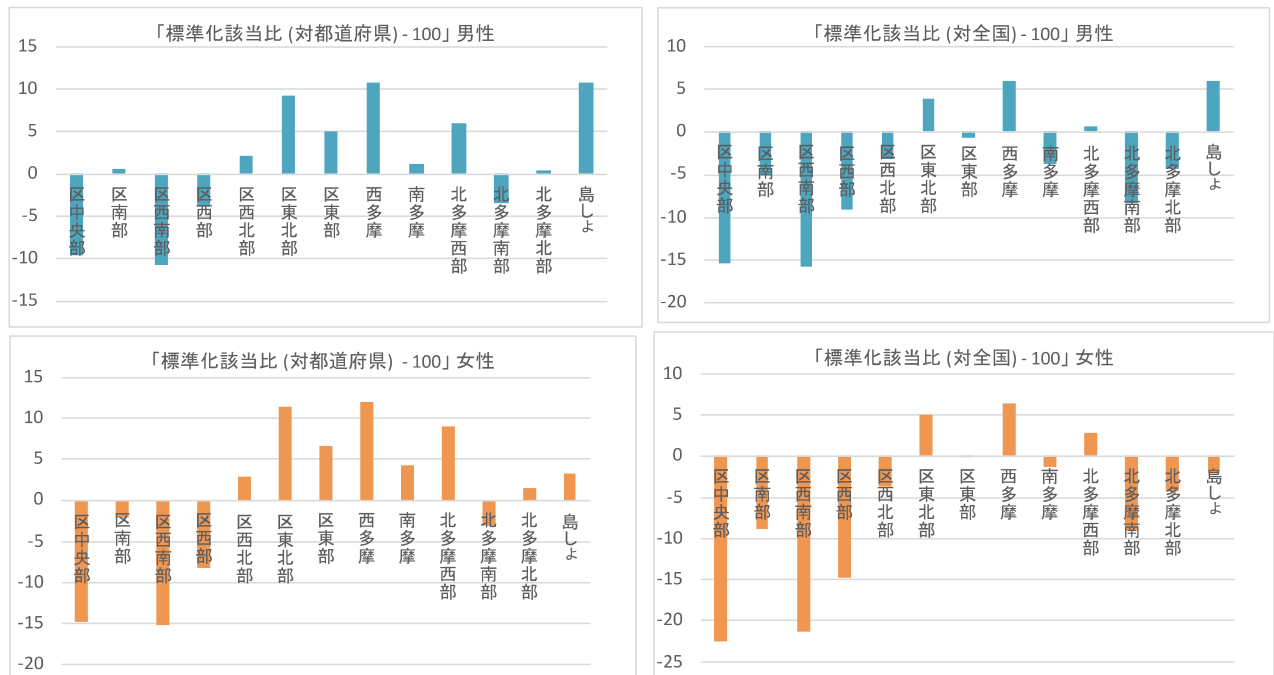
特定健診(収縮期血圧): H27年度 保健指導判定値 130以上

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



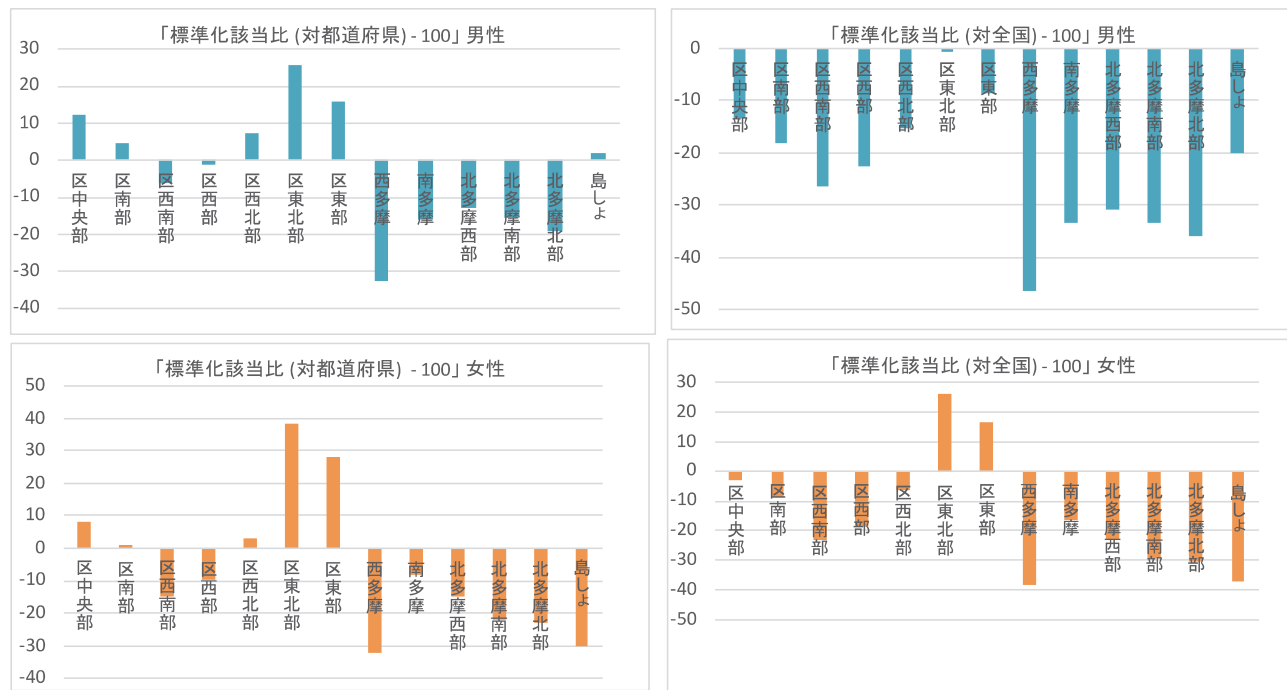
H26年度の特定健診においてHbA1cが5.6以上であった者のうち、
同年度中に糖尿病の傷病名と糖尿病治療薬の処方の双方が存在する月が1ヶ月以上あった者

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



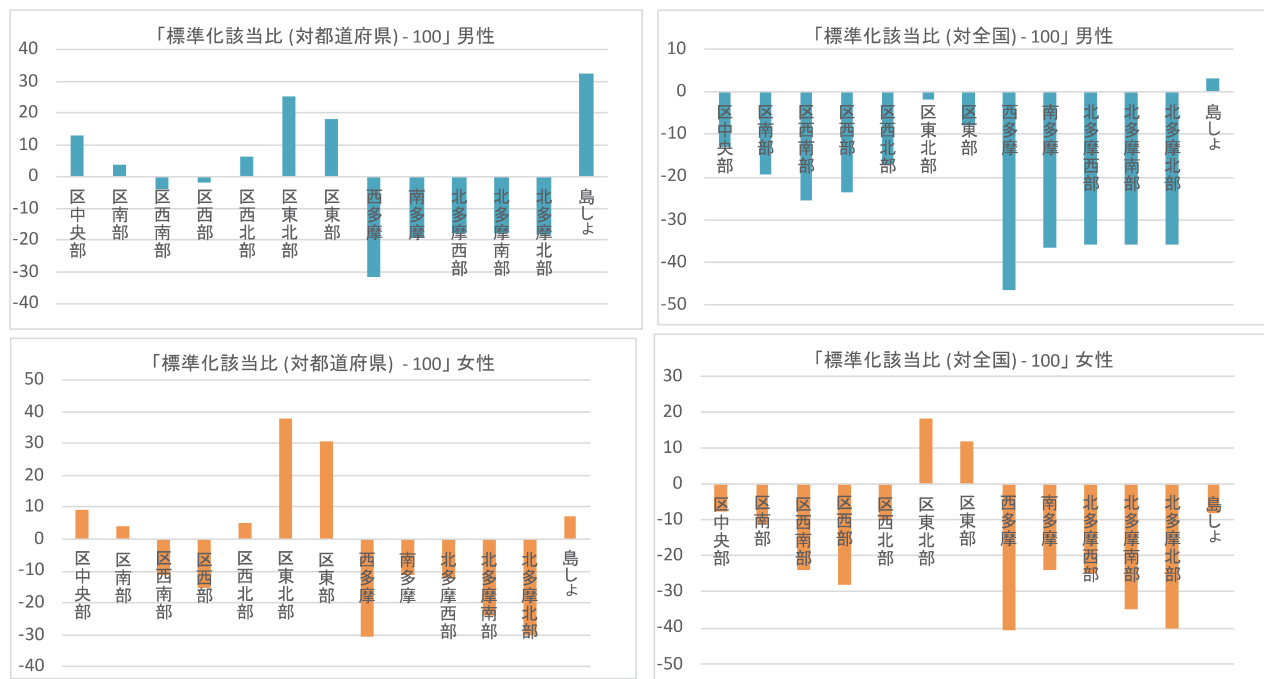
H27年度の特定健診においてHbA1cが5.6以上であった者のうち、
同年度中に糖尿病の傷病名と糖尿病治療薬の処方の双方が存在する月が1ヶ月以上あった者

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



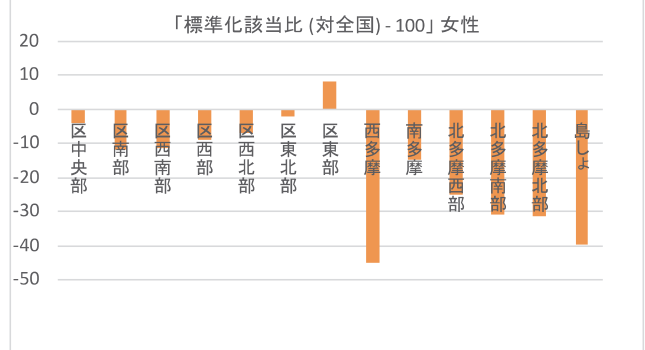
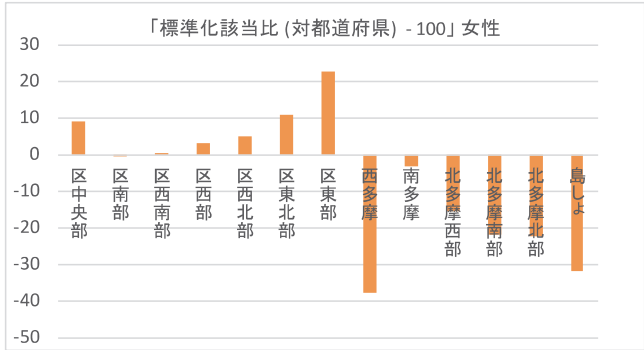
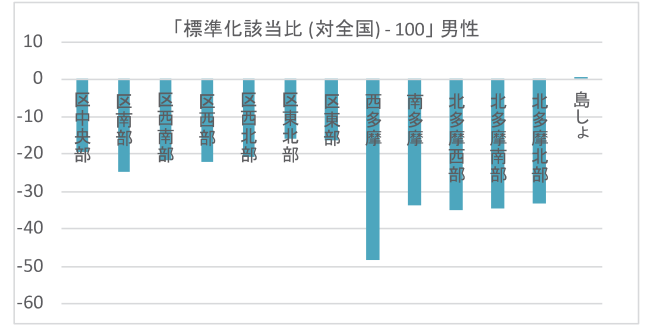
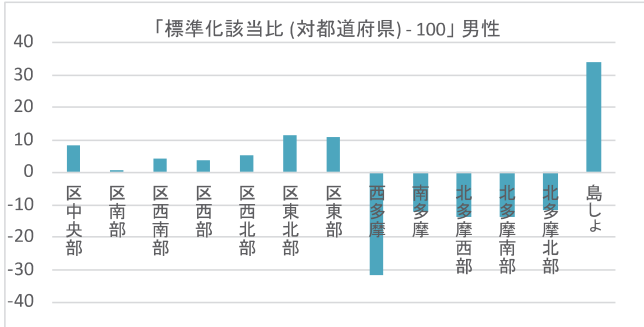
H26年度の特定健診においてHbA1cが6.5以上であった者のうち、同年度中に糖尿病の傷病名と糖尿病治療薬の処方の双方が存在する月が1ヶ月以上あった者

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



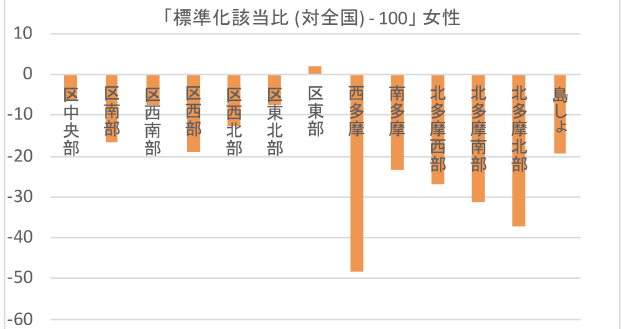
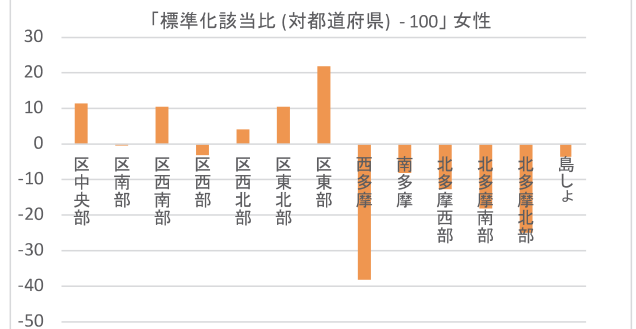
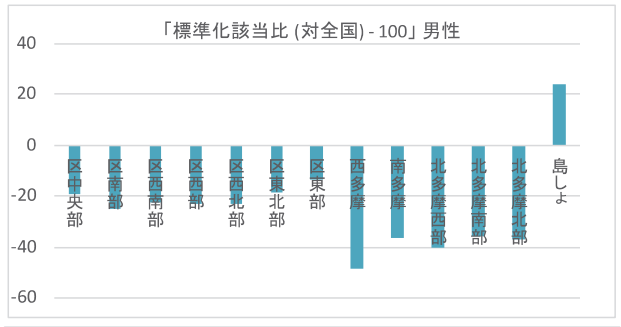
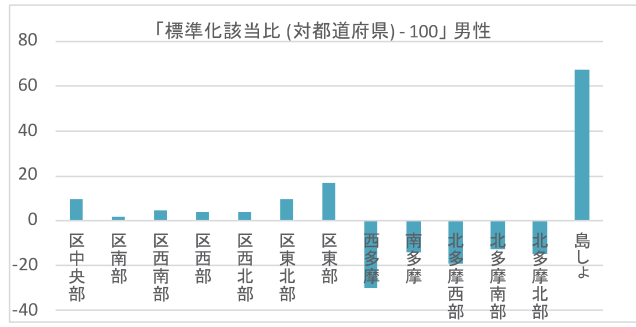
H27年度の特定健診においてHbA1cが6.5以上であった者のうち、同年度中に糖尿病の傷病名と糖尿病治療薬の処方の双方が存在する月が1ヶ月以上あった者

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



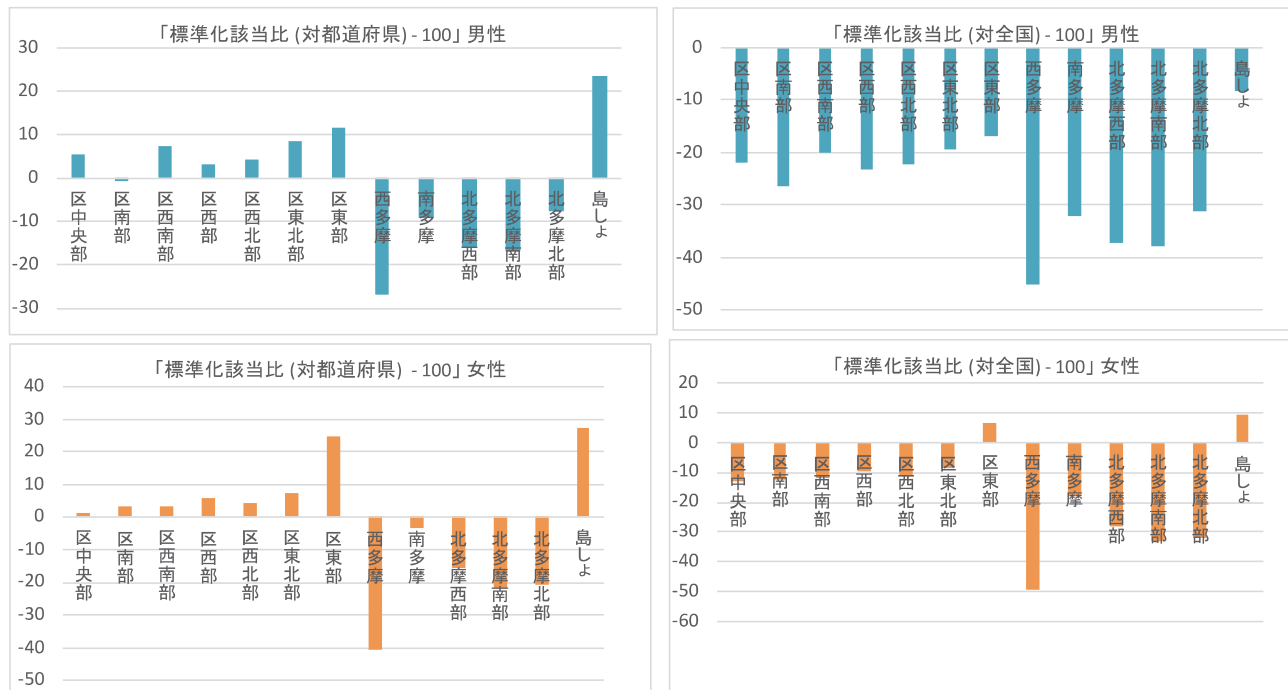
H26年度の特定健診においてHbA1cが7.0以上であった者のうち、同年度中に糖尿病の傷病名と糖尿病治療薬の処方の双方が存在する月が1ヶ月以上あった者

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



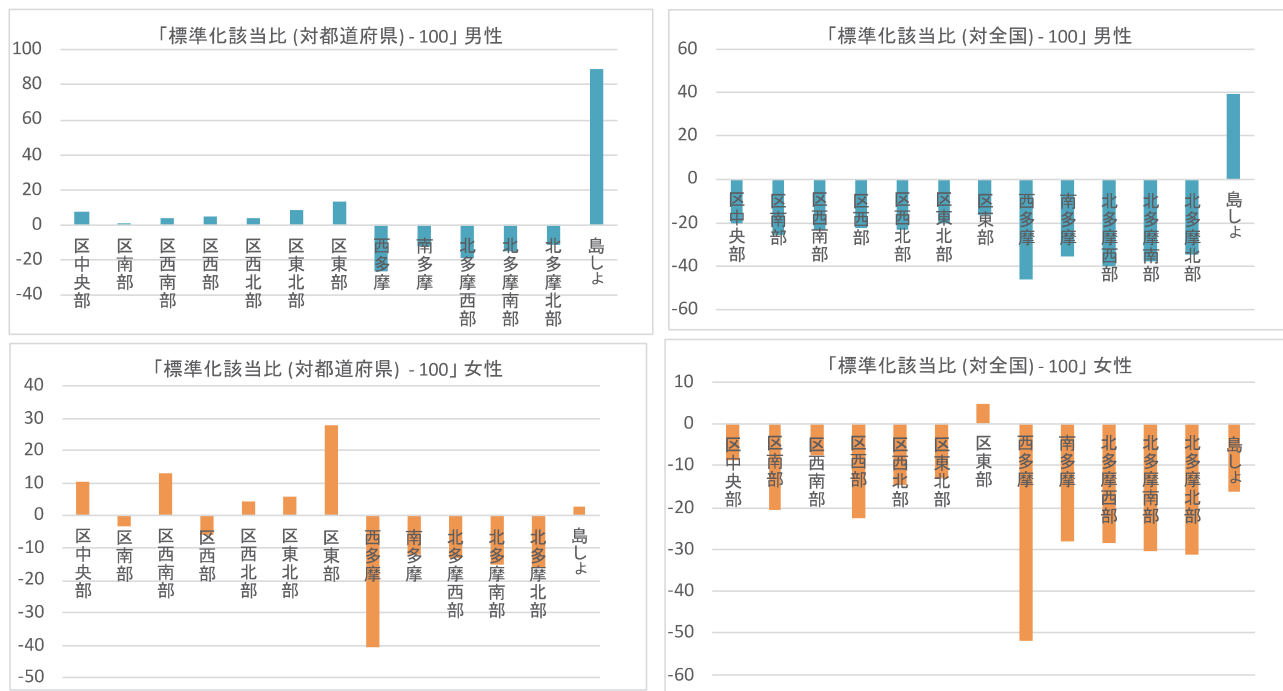
H27年度の特定健診においてHbA1cが7.0以上であった者のうち、同年度中に糖尿病の傷病名と糖尿病治療薬の処方の双方が存在する月が1ヶ月以上あった者

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



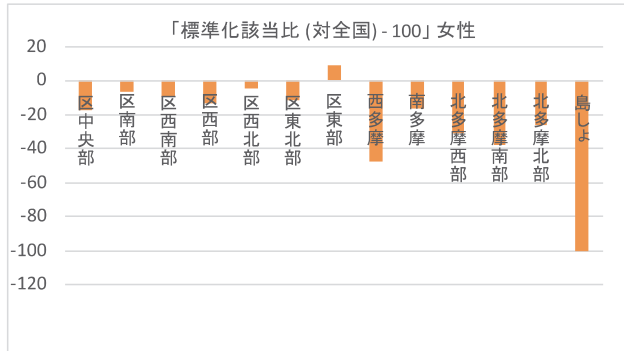
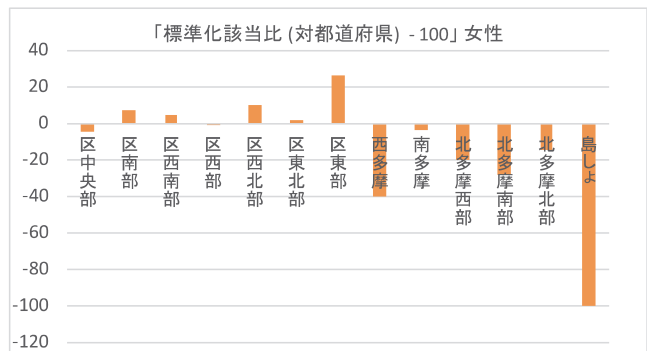
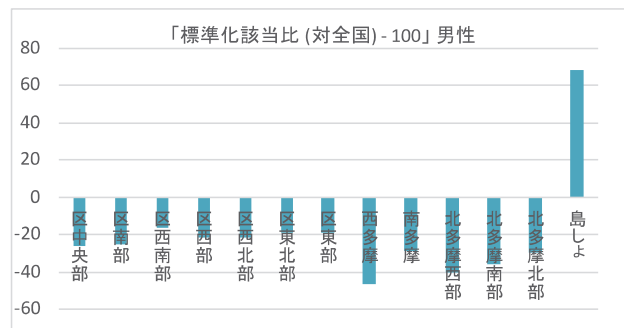
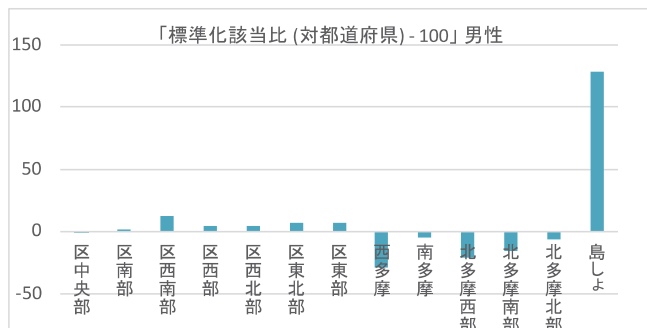
H26年度の特定健診においてHbA1cが8.0以上であった者のうち、同年度中に糖尿病の傷病名と糖尿病治療薬の処方の双方が存在する月が1ヶ月以上あった者

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都



H27年度の特定健診においてHbA1cが8.0以上であった者のうち、同年度中に糖尿病の傷病名と糖尿病治療薬の処方の双方が存在する月が1ヶ月以上あった者

基準集団との差異に焦点を当てたグラフ(縦軸の範囲はグラフに合わせ変動)

→ 基準集団において期待される該当者数よりも、実際に観察された該当者数が〇〇%多い、少ない

グラフの縦軸の値 = 標準化該当比 - 100

東京都

